



**VHF/UHF
ULTRA-COMPACT
DUAL-BAND TRANSCEIVER
WITH WIDE BAND COVERAGE**

VX-2

取扱説明書



安全上のご注意

4

お使いになる前に

7

基本操作

12

メモリーを使う

16

スキャンを使う

26

各種の便利な機能

31

特定の相手局との交信

39

必要に応じて使う機能

41

付 録

54

当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります。
この取扱説明書に記載の社名・商品などは、各社の商標または登録商標です。
本機を使用するためには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

目次

安全上のご注意	4	メモリスキャン	29
お使いになる前に	7	特定のメモリチャンネルのみをスキャンする	30
付属品を取り付ける	7	各種の便利な機能	31
アンテナを取り付ける	7	周波数を調べる (チャンネルカウンター)	31
ベルトクリップと市販のハンドストラップを取り付ける	7	スマートサーチ	32
電池パックを準備する	8	盗聴器を探し出す (盗聴器発見機能サーチ)	33
電池パックを取り付ける	8	デュアルレシーブ(DW)機能を使う	34
電池パックを充電する (約2.5時間充電)	8	FFスケルチ機能を使う	34
使用時間の目安と残量表示	9	自動的に電源をオフする(APO)	35
外部電源を接続する	9	連続送信時間を制限する (TOT)	35
各部の名前と働き	10	受信中に誤って送信しないようにする (BCL/O)	35
ディスプレイの説明	11	DTMF機能を使う	36
基本操作	12	ARTS機能を使う	38
電源を入れる	12	特定の相手局との交信	39
音量を調節する	12	トーンスケルチまたはDCSを使う	39
周波数帯 (BAND) を選ぶ	12	ベル機能を使う	40
周波数をあわせる	12	必要に応じて使う機能	41
送信する	13	緊急を知らせる (エマージェンシー機能)	41
送信出力を切り替える	13	ディスプレイとテンキーの照明輝度を調節する	41
リセットをする	13	照明が自動的に点灯しないようにする	41
状態が変わらないようにロックする	14	電池の電圧を表示する	42
スケルチのレベルを調節する	14	受信感度を下げる (ATT)	42
レピータで交信する	14	操作音がならないようにする	42
WRESで交信する	15	マニュアルでモードを切り替える	43
メモリーを使う	16	マニュアルでステップを切り替える	43
多彩なメモリー機能	16	インターネットキーの動作をマイキーに変更する	43
メモリーに書き込む	17	マイキーの登録を変更する	43
メモリーを消す	17	セットモード番号順一覧表	44
メモリーを呼び出す	18	セットモード項目別一覧表	45
メモリーを呼び出す	18	セットモードの動作一覧表	46
ホームチャンネルを呼び出す	18	セットモードリセット	46
メモリーバンクを使う	19	パケット通信に使う	52
メモリーバンクに登録する	19	クローン操作	53
メモリーバンク内の		付 録	54
メモリーチャンネルを呼び出す	19	プリセットされている放送局周波数一覧表	54
メモリータグを使う	20	TVチャンネル/周波数一覧表	58
メモリーに名前をつける	20	JR鉄道無線周波数一覧表	58
メモリータグを表示する	21	周波数の使用区分	59
スペシャルバンクのTV専用メモリーでTV放送を聴く	22	アマチュア無線局免許申請書類の書きかた	60
スペシャルバンクを呼び出して		オプション	62
世界各地の放送、AM/FMラジオ、TV放送を聴く	23	故障かな?と思ったら	63
スペシャルバンクを呼び出してJR鉄道無線を聴く	24	索引	64
スキャンを使う	26	定 格	66
VFOスキャン	26	キー操作早見表	67
プログラマブルメモリスキャン (PMS)	28		

同梱品

梱包品をご確認ください。

本体 (VX-2)	1	取扱説明書 (本書)	1
アンテナ	1	保証書	1
電池パック (FNB-82LI)	1	ご愛用者カード	1
バッテリーチャージャー (NC-85A)	1	JARL入会申込書	1
ベルトクリップ	1		

- 保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることを、ご確認ください。
- 不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

特 長

超小型軽量, 広帯域受信機能搭載 144MHz/430MHz デュアルバンドトランシーバー! 12 ページ
W47mm×H81mm×D23mm (突起物含まず), 重量 132g (付属アンテナ, リチウムイオン電池パックを含む) を実現。ワイシャツの胸ポケットにはもちろん, 手にすっぽり入る超小型軽量ハンディーです。
また, 504kHz～998.99MHz に対応した広帯域受信機能を搭載した 144MHz/430MHz バンドのデュアルバンドトランシーバーで, 小型のボディでありながら送信出力 1.5W (430MHz バンド: 1W) を実現しています。

WIFES アクセス機能を搭載! 15 ページ
インターネットに接続して通信距離を飛躍的に拡大する WIFES システムを利用することができます。

世界各地の放送, AM/FM ラジオ, TV 放送をスペシャルバンクで簡単受信! 22, 23 ページ
放送局専用のスペシャルバンクは, 専用プリセットメモリーにより, 世界各地の主な放送局, AM/FM ラジオ放送局, TV 放送局の音声を簡単に聴くことができます。

JR 鉄道無線はもちろん可変周波数型空線スケルチにより JR 以外の鉄道無線にも対応! 24 ページ
JR 鉄道無線専用のスペシャルバンクにより, 主要な JR 鉄道無線の空線信号音を消して待受け受信することができます。また, 可変周波数型空線スケルチにより JR 以外の鉄道無線にも対応しています。

周波数を測定するチャンネルカウンターを搭載! 31 ページ
おおよその周波数しかわからないトランシーバーの周波数を知りたいとき, 送信しているトランシーバーに近づけるだけで周波数を測定することができます。

盗聴器発見機能サーチを搭載! 33 ページ
「盗聴器が仕掛けられているかもしれない」そんなときの助け舟, 盗聴で使用されていると思われる電波を自動的にさがしだし, おおよその設置場所を発見することができます。

エマージェンシー機能を搭載! 41 ページ
ホワイト色のストロボ発光とビーブ音で緊急を知らせることができます。

電波を発射する前に

アマチュア局は, 自局の発射する電波が, テレビやラジオの受信に障害を与えたり, 障害を受けているとの連絡を受けた場合は, ただちに電波の発射を中止して障害の有無や程度を確認してください。

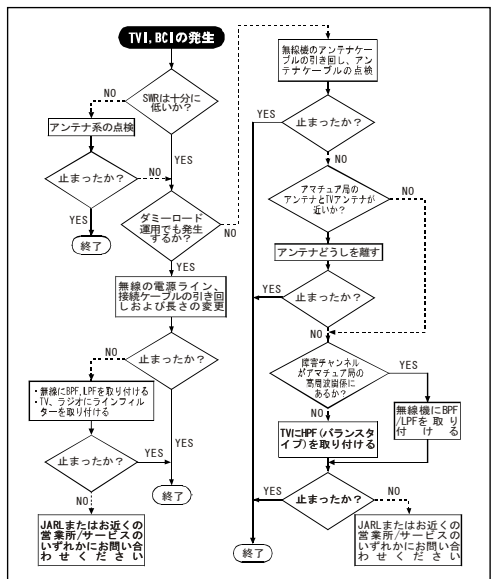
《参考》無線局運用規則 第9章 アマチュア局の運用
第258条 アマチュア局は, 自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え, 若しくは, 与える虞があるときは, すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。
(以下省略)

障害が自局の電波によるものと確認された場合, 無線機, アンテナ系を点検し障害に応じてお近くの営業所/サービス, またはお買い上げの販売店などに相談するなどして, 適切な処置を行ってください。

受信側に原因がある場合, 障害対策は単に技術的な問題に止まらず, ご近所付き合いなどで, おずかしい場合もあります。

(社) 日本アマチュア無線連盟 (JARL) では, 電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので, 対策にお困りの場合はご相談ください。

社団法人日本アマチュア無線連盟 (JARL)
〒170-8073 東京都豊島区巣鴨 1-14-5
TEL 03-5395-3111






安全上のご注意

安全上のご注意（必ずお読みください）



本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた障害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。


マークの種類と意味


- | | |
|---|--|
|  危険 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。 |
|  警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。 |


図記号の種類と意味


- | |
|--|
|  本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。 |
|  本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。 |


危険


 航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では使用しないでください。電子機器や医療機器に影響を与える場合があります。

 自動車やバイク等を運転しながら使用しないでください。事故の原因になります。運転者が使用するときは、必ず安全な場所に車を止めてから使用してください。

 心臓ペースメーカー等の医療機器を装着されている方は、携行した状態では送信しないでください。送信する場合は、外部アンテナを使用し、できるだけアンテナから離れて送信してください。
本機からの電波が医療機器に影響を及ぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。

 心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方に配慮し、混雑した場所では送信しないでください。
本機からの電波が医療機器に影響を及ぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。

 電池パックから漏れている液などに素手で触れないでください。
皮膚に付着したり、目に入ると化学火傷を起こすおそれがあります。この場合、直ちに医師の診断を受けてください。

 電池パックの端子をハンダ付けしたり、ショートさせたりしないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。また、ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。ショートするおそれがあります。

安全上のご注意 (必ずお読みください)

警告



指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。



電池パックを指定機器以外の用途に使用しないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



水のかかる場所では使用しないでください。故障の原因になります。もしケース等が濡れた場合は電源をすぐオフにし、乾いた布などで拭いてください。
濡れたまま放置すると、故障や感電などの原因になります。



無線機、電池パックおよびバッテリーチャージャーから煙が出ていたり、変な臭いが出るときは、電源をオフにして、電池パックを取り外し、電源コードをコンセントから抜いてください。
火災・漏液・発熱・破裂・破損・発火・故障の原因になります。お買い上げの販売店または当社営業所/サービス窓口にご連絡ください。



分解や改造をしないでください。
ケガ・漏液・感電・火災・故障の原因になります。



外傷、変形の著しい電池パックを使用しないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



当社指定以外のバッテリーチャージャーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。



電池パックの端子はいつもきれいにしておいてください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パックの充電が所定の時間を超えても完了しない場合には、直ちにバッテリーチャージャーをコンセントから抜いてください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

注意



アンテナを持って、本体を振り回したり投げたりしないでください。
本人や他人に当たり、ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の原因にもなります。



人の多い場所では使用しないでください。
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。



本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形・変色などの原因になります。



本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。



送信中は、できるだけ身体からアンテナを離してください。
長時間身体に電磁波を受けると、身体に悪影響を及ぼす場合があります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは中性洗剤を湿した布で軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。



長期間ご使用にならない場合には、安全のため電源をオフにし、電池パックを抜いてください。



強い衝撃を加えたり、投げつけたりしないでください。
故障の原因になります。



磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。
キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。



イヤピースマイクロホン、イヤホン、ヘッドホンなどを使用するときは、音量を大きくしないでください。
聴力障害の原因になります。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管してください。
ケガなどの原因になります。



ハンドストラップやベルトクリップの取り付けは確実に行ってください。
間違った取り付けかたは、落下によるケガや本体の破損などの原因になります。

安全上のご注意 (必ずお読みください)

注意



電池パックは5℃～35℃の温度範囲内で充電してください。

この温度範囲以外で充電すると、漏液や発熱したり、電池の性能や寿命を低下させる原因になります。



付属のバッテリーチャージャーで当社指定の電池パック以外は充電しないでください。

火災や故障の原因になります。



使用済みの電池パックは、端子にテープなどを貼って絶縁してから破棄してください。



引火性のガスの発生する場所でバッテリーチャージャーを使用しないでください。
発火事故の原因になることがあります。



バッテリーチャージャーを使用しないときは、コンセントから抜いてください。



バッテリーチャージャーの電源コードの上に重い物を載せないでください。

電源コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



バッテリーチャージャーをコンセントから外すときは、必ずバッテリーチャージャー本体を持ってください。

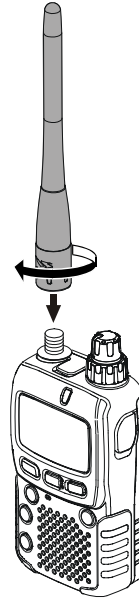
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因になります。

付属品を取り付ける

■アンテナを取り付ける

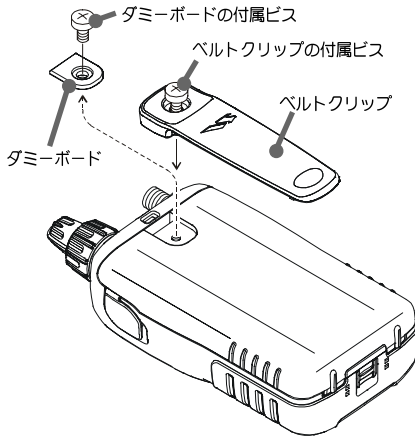
アンテナのコネクターに近い太い部分を持って、時計方向に回して取り付けます。

- アンテナの取り付け/取り外し時には、アンテナの上部を持って回さないでください。アンテナの内部で断線する場合があります。
- アンテナを取り付けない状態で送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。
- 付属以外のアンテナを使用する場合や、外部のアンテナを接続する場合には、SWRが1.5以下に調整されたものを使用してください。



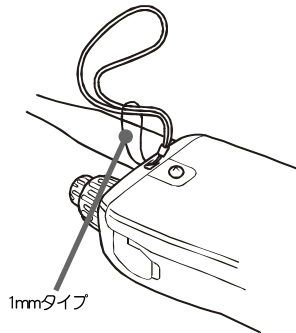
■ベルトクリップと市販のハンドストラップを取り付ける

1. ダミーボードのビスを外します。
2. ベルトクリップに付属されているビスで取り付けます。



市販のハンドストラップを取り付ける

取り付けひもが1mmタイプのストラップを取り付けてください。



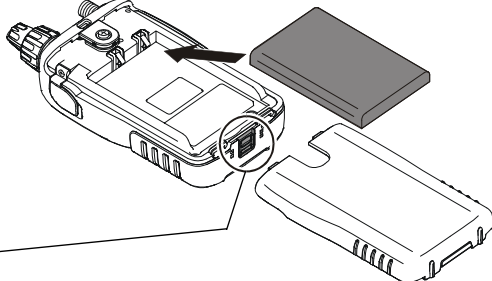
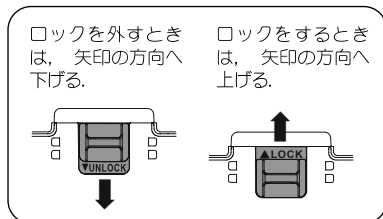
- ベルトクリップの固定には、必ずベルトクリップの付属ビスを使用してください。ダミーボードのビスや他のビスを使用すると、しっかり固定できなかったり、本機の内部に損傷を与える場合があります。
- ベルトクリップを使用しないときは、ダミーボードを取り付けてあったビスでダミーボードを取り付けてください。ベルトクリップのビスや他のビスを使用すると、しっかり固定できなかったり、本機の内部に損傷を与える場合があります。

電池パックを準備する (1)

■電池パックを取り付ける

お買い上げ直後または長期間使用していない電池パックは、充電してからお使いください。

1. 本機底面のロックを下げ、カバーをスライドさせて外します。
2. 電極に注意しながら電池パックを押し込んで入れます。
3. カバーをスライドさせて取り付け、ロックを「カチッ」と音がするまで上げます。



■電池パックを充電する (約2.5時間充電)

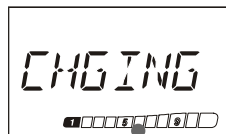
1. VX-2の Ⓢ を1秒以上押して電源を“オフ”にします。
2. 付属のバッテリーチャージャー (NC-85A) を、VX-2のEXT DC端子に接続して充電します。

充電中はディスプレイに充電の経過をあらわす棒グラフと“CHG ING”が表示され、BUSY/TXインジケータが赤色に点灯します。

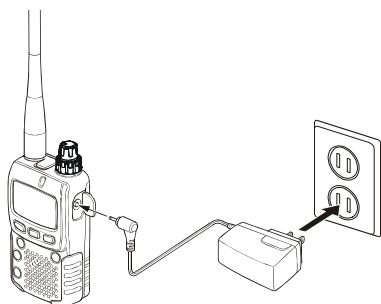
充電が終わると棒グラフはフルスケールに、表示は“CHG FUL”に変わり、BUSY/TXインジケータが緑色に点灯します。

バッテリーチャージャーを接続するとVX-2のディスプレイに“FL IN 3”が表示され、BUSY/TXインジケータがオレンジ色に点灯することがあります。「電池パックがほぼ一杯に充電されている」、または「電池パックが取り付けしていない」ときに表示されます。

3. 約2.5時間で充電は完了します。



充電の経過を棒グラフであらわす



電池パック (リチウムイオン電池)について

- 電池パックは、繰り返し使用できる充電可能なリチウムイオン電池 (3.7V, 1000mAh) を使用しております。
- 電池パックは、正しく充電すると約300回使用できます。
- 電池パックは消耗品です。充電電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- VX-2に電池パックを取り付けた状態で、放置すると劣化の進行を早めることがあります。
- 高温の場所で保管すると、劣化の進行を早めることがあります。なるべく低温状態で保管してください。
- 電池パックを落としたり衝撃を与えると、破損の原因になります。

- 使用中にバッテリーチャージャーが発熱する場合がありますが故障ではありません。
- 充電は、周囲の温度が+5℃～+35℃の場所で行ってください。
- 電池パックが消耗すると“ ”が点滅します。すみやかに充電してください。
- 付属のバッテリーチャージャーは、充電専用です。受信や送信をすることはできません。
- 充電中にテレビやラジオにノイズが入ることがありますので、できるだけ離して充電してください。
- 3時間経過しても充電が完了しない場合は、“CHG ERR”が表示され、充電を終了します。この場合は、お買い上げの販売店またはお近くの営業所/サービスにご連絡下さい。
- とくとき端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。

電池パックを準備する (2)

■使用時間の目安と残量表示

フル充電した電池パックで使用できる時間の目安は次のとおりです。

使用バンド		電池パック	アイコン表示
アマチュアバンド	144MHz帯	約6.5時間	なし：ほぼ一杯に充電されています。
	430MHz帯	約7時間	 ：残りわずかです。
AMラジオ放送帯、短波帯、 FMラジオ放送帯、TV放送帯		約12時間	 ：空になりましたすぐ充電してください。 (点滅)

上記の目安は次の使いかたの場合です。

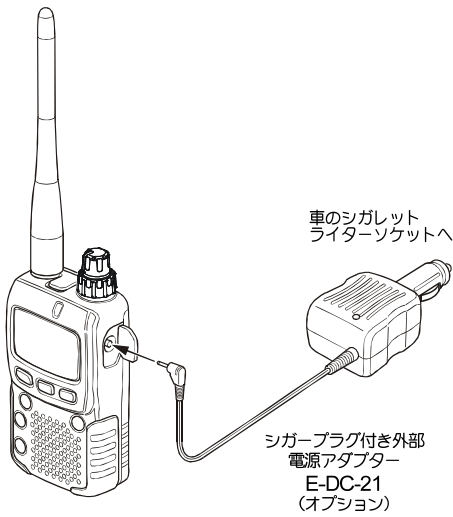
- アマチュアバンド：ハイパワーで送信6秒、受信6秒、待ち受け48秒の繰り返し
- その他のバンド：連続受信
- 上記の使用時間は目安です。実際に使用できる時間は、使いかたや温度などによって異なります。

外部電源を接続する

オプションのシガープラグ付き外部電源アダプター (E-DC-21) を使用すると、充電しながら送受信することができます。オプションの取扱説明書もあわせてご覧ください。

- VX-2の電源をオフにした状態での充電時間は、約2.5時間です。なおVX-2の電源をオンにして充電すると、充電時間は多少長くなります。
- E-DC-21はDC12VとDC24Vのシガレットライターソケットに対応しています。
- 周囲の温度が+5℃～+35℃の場所で充電を行なってください。
- ときどき端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく充電できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。

1. VX-2の Ⓢ を1秒以上押して電源を“オフ”にします。
2. オプションのシガープラグ付き外部電源アダプター (E-DC-21) の無線機側のプラグを、VX-2のEXT DC端子に接続します。
3. シガープラグ付き外部電源アダプター のシガープラグを、車のシガレットライターソケットに接続します。
E-DC-21のLEDインジケーターが赤色に点灯します。



お
使
い
に
な
る
前
に

各部の名前と働き

- ・周波数を変えたり、メモリーチャンネルを選択します。
- ・**[BW]**を押した後**DIALツマミ**をまわすと1MHz単位で周波数を変化させることができます。

MIC/SP端子

オプションのスピーカーマイクやイヤピースマイクを接続します。

! 当社指定以外のマイクやイヤホンは接続しないでください。

アンテナ端子 (SMA)

付属のアンテナを接続します。

ディスプレイ

受信する周波数や各種の設定状態などが表示されます。

PTTスイッチ

押しているあいだ送信します。

モニタースイッチ

- ・押しているあいだ一時的にスケルチをオフにします。
- ・**[BW]**を押した後**モニタースイッチ**を押すとスケルチの調節ができます。

(電源) スイッチ

- ・1秒以上押して電源をオン。
- ・再度1秒以上押して電源がオフになります。

[BAND] キー

- ・バンドをアップ方向に切り替えます。
- ・1秒以上押したままにし、**DIALツマミ**をまわしてスキャン幅設定、キーを離すと、設定したスキャン幅でスキャンを開始します。
- ・**[BW]**を押した後**[BAND]**を押すと、バンドをダウン方向に切り替えます。
- ・**[BW]**を押した後**[BAND]**を長押しすると、キーロックになります。

[BW] キー

- ・ファンクションモードになります。ファンクション中はディスプレイの「**[F]**」が点灯します。何も操作をしないと5秒間で解除されます。
- ・1秒以上押すと、メモリーチャンネルへの書き込みモードになります。

[HM/HV] キー

- ・ホームチャンネルに移行します。
- ・1秒以上押すと、エマージェンシーモードになり、ビーブ音とBUSY/TXインジケータのストロボ発光（ホワイト色）で緊急を知らせます。
- ・**[BW]**を押した後**[HM/HV]**を押すと、シフト設定されている周波数でリバース動作になります。

VOLツマミ

右にまわすほど、音が大きくなります。

BUSY/TXインジケータ

受信時は緑色に点灯し、送信時は赤色に点灯します。また、エマージェンシーモードの時はホワイト色に点滅します。

EXT DC 端子

外部電源を使用するときに、当社指定のシガープラグ付き外部電源アダプター（E-DG-21）を接続します。電池パックを充電するときは、この端子にバッテリーチャージャー（NC-85A）を接続します。

! 当社指定以外の製品を、接続しないでください。

[V/M] キー

- ・VF0モードとメモリーモードが交互に切り替わります。
- ・1秒以上押すと、希望するメモリーチャンネルを5秒間に1回優先的に受信するデュアルレシーブ（プライオリティスキャン）機能が発動します。
- ・**[BW]**を押した後**[V/M]**を押すと、メモリーチャンネルの内容を一時的に変えることができるメモリーチューン機能が動作します。

[MD] キー

- ・手動でモードを切り替えます。工場出荷時は自動的に周波数帯に適合したモードに切り替わるオートモード（AUTO）に設定されています。
- ・1秒以上押すと、チャンネルカウンタ、スマートサーチ、盗聴器発見機能サーチなどのスペシャルサーチ機能が動作します。
- ・**[BW]**を押した後**[MD]**を押すと、トーンスケルチ機能やDCS機能がオン/オフすることができます。

スピーカー

[H/L] キー

- ・送信出力を2段階に切り替えることができます。
- ・1秒以上押すと、セットモード移行します。
- ・**[BW]**を押した後**[H/L]**を押すと、**DIALツマミ**をまわして周波数ステップを切り替えることができます。工場出荷時は自動的に受信周波数に応じた最適なステップに切り替わるオートステップ（AUTO）に設定されています。

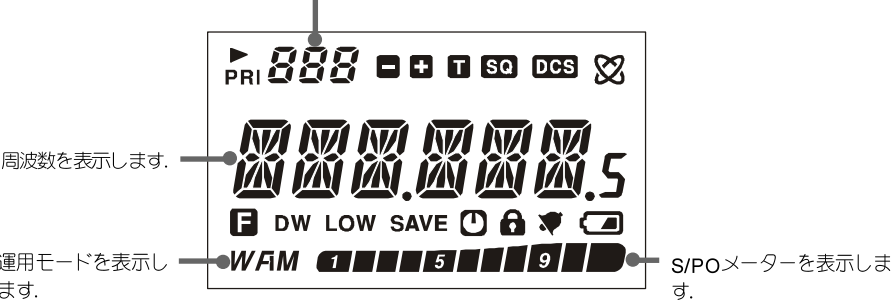
マイク

[X] キー

- ・WPRESなどのインターネット通信を行なうときに使用します。
- ・1秒以上押すと、ARTS機能が動作します。
- ・**[BW]**を押した後**[X]**を押すと、スペシャルバンクを呼び出すことができます。スペシャルバンクには、あらかじめプリセットされている、TVチャンネル、JRF鉄道無線、国内放送および世界の放送局を選択して受信することができます。

ディスプレイの説明

VFOモードやメモリーモードなどの動作状態を表示します。



アイコン部分

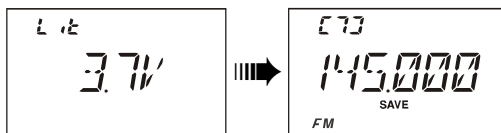
アイコン	動作説明	アイコン	動作説明
▶	スキップメモリーや特定メモリーが指定されたメモリーチャンネルを呼び出し中に表示します。 ▶：スキップメモリー ▶ (点滅)：特定メモリー	F	キーがファンクションモードになっているときに点灯します。
		DW	デュアルレシーブ時に点灯します。
PRI	プライオリティが指定されたメモリーチャンネルを呼び出し中に点灯します。	LOW	送信出力を表示します。 なし：ハイパワー LOW：ローパワー
- +	レピータ運用時にシフト方向を点灯します。 -：マイナスシフト +：プラスシフト - +：スプリットメモリー	SAVE	バッテリーセーブ機能が動作中（セーブ中）に点滅します。
		🕒	APO機能が動作しているときに点灯します。
T SQ DCS	トーンスケルチ、DCS、空線スケルチ運用時に表示します。 T：トーンエンコーダーがオンのときに点灯 T SQ：トーンスケルチがオンのときに点灯 DCS：DCSがオンのときに点灯 T SQ (点滅)：リバーストーンがオンのときに表示 SQ：空線スケルチがオンのときに点灯	🔒	LOCK機能がオンのときに点灯します。
		📶	ベル機能がオンのとき点灯します。
		🔋	バッテリーの状態を表示します。 なし：ほぼ一杯に充電されています。 🔋：残りわずかです。 🔋：空になりましたすぐ充電してください。 (点滅) ださい。
🌐	WIRESなどのインターネット通信時に表示します (SRGモード時)。		

お
使
い
に
な
る
前
に

基本操作

電源を入れる

⏻を1秒以上押すと電源がオンになります。
電源をオンにすると右図のように電源電圧を表示した後、周波数を表示し受信します。
工場出荷時には、145.000MHzの周波数が設定されています。



もう一度、⏻を1秒以上押すと電源がオフになります。

- セットモードの『30 OPNMSG』により、電源を入れたときに表示する電源電圧をコールサインなどを表示するオープニングメッセージに変更することができます。また、電源電圧やオープニングメッセージを表示せずに、すぐに受信周波数を表示することもできます。

音量を調節する

VOLツマミをまわして、受信音を調節します。

音量を調節するときにスピーカーから何も聞こえていない場合は、**モニタースイッチ**を押してザーという雑音を聞きながら**VOLツマミ**をまわしてください。

周波数帯 (BAND) を選ぶ

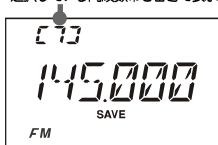
[BAND]を押して周波数帯を選びます。

[BW]を押した後**[BAND]**を押すと、反対方向に切り替わります (BND DN)。

144MHz帯 [7] ⇨ TV-VHF放送帯(2) [8] ⇨ 情報無線帯(1) [9] ⇨ 430MHz帯 [A] ⇨ TV-UHF放送帯 [b] ⇨ 情報無線帯(2) [c] ⇨ 中波帯 [1] ⇨ 短波帯 [2] ⇨ 60MHz帯 [3] ⇨ FMラジオ放送帯 [4] ⇨ TV-VHF放送帯(1) [5] ⇨ 航空無線帯 [6] ⇨ (144MHz帯に戻る)

- 現在、どの周波数帯を選択しているかディスプレイの左上に[1]~[c]の番号が表示されます (各周波数帯の番号は上記参照)。
- 周波数帯と受信周波数の関係表は26ページを参照してください。
- **[BW]**を押すと、周波数帯のホームチャンネルが呼び出されます (18ページ参照)。
- 自動的に周波数帯に適したモードに切り替わる“**AUTO**(オートモード)”に設定されていますが、**[MD]**を押すたびにマニュアルで**AUTO**、**FM**、**WFM**、**AM**に設定することができます (43ページ参照)。

選択している周波数帯を番号で表示



周波数をあわせる

DIALツマミで周波数をあわせませう。

DIALツマミを右にまわすと周波数は高くなり、左にまわすと低くなります。

また、**[BW]**を押した後**DIALツマミ**をまわすと、1MHz単位で変化します。



- **DIALツマミ**で周波数を直接選択できる状態を**VFOモード**といいます。
- 自動的に受信周波数に応じた最適なステップに切り替わる“**AUTO**(オートステップ)”に設定されていますが、**[BW]**を押した後**[H/L]**を押すと、**DIALツマミ**をまわして周波数ステップを切り替えることができます (43ページ参照)。
- セットモードの『47 VFO MD』により、周波数帯のエッジに達してさらに**DIALツマミ**をまわすと、現在の周波数帯の他端になるように設定することもできます。
- 下記の周波数帯は受信することができません。
253 ~ 276MHz, 380 ~ 383MHz, 412 ~ 416MHz, 810 ~ 846MHz, 860 ~ 901MHz, 915 ~ 961MHz

送信する

1. PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

マイクと口元の間隔は、5cm位が適当で、普通の声で話します。

2. PTTスイッチを離すと受信に戻ります。

- 144MHz帯と430MHz帯のアマチュア無線バンドで送信することができます。送信できるモードはFMモードのみです。
144MHz帯と430MHz帯のアマチュア無線バンド以外や、WFMおよびAMのモードでPTTを押したときは、ディスプレイに“**ERROR**”が表示され送信できません。
- セットモードの『46 TXSAVE』により、相手局の信号強度に合わせて送信出力が自動的に下がりバッテリーをセーブすることができます。
- セットモードの『6 BCLQ』により、信号を受信中に送信しようすると送信を禁止することができます。
- 長時間送信し続けると過熱防止回路が働き、送信出力が自動的にローパワーになります。また、過熱防止回路が働いているときにさらに送信を続けると、強制的に受信状態に戻ります。セット内部の温度が下がるまで本機をよく休ませてから送信してください。
- アンテナを取り付けない状態で送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。

送信出力を切り替える

VX-2の送信出力は、付属の電池パックで1.5W（430MHz帯は1W）ですが、距離の近い相手と交信するときや、バッテリーの消耗を抑えるときには、送信出力を下げるすることができます。

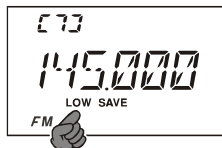
電源の種類ごとの送信出力は右のとおりです。

電源の種類	ハイパワー	LOW
電池パック FNB-82Li	1.5W (430MHz帯: 1.0W)	0.1W
シガープラグ付き外部電源アダプター E-DC-21 (DC 6.0V)	3.0W (430MHz帯: 2.0W)	0.3W

[H/L] を押します。

[H/L] を押すたびに、送信出力が切り替わります。ローパワーのときのみディスプレイに“**LOW**”が表示されます。

各バンドごとに送信出力を設定することができます。



- バッテリーの消耗を抑えるためにも、必要最低限の送信出力で使用してください。
- 送信出力を下けているときでも、**[BW]** を押した後**PTTスイッチ**を押すとハイパワーで送信できます（一時ハイパワー送信）。
- お買い上げ時の状態では「ハイパワー」に設定されています。

オールリセットをする

すべての設定やメモリーをクリアしてお買い上げ時の状態に戻すことができます。

1. **[BAND]** **[H/L]** **[V/M]** の3つのキーを押しながら **[ON]** を押して電源をオンにします。
「ピッポッパッ」とピープ音が鳴ると同時に、キーから指を離してください。
2. “ALL RESET PUSH F KEY”の表示が出たら、**[BW]** を押します。
「ピッポッパッ」とピープ音が鳴ります。
[BW] 以外のキーまたはスイッチを押すと、リセットを中止することができます。



オールリセットを行うと、メモリーした内容は全て消去されます。メモリー内容は必ず紙などに控えておくようにしてください。

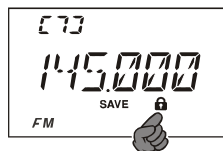
- セットモードの設定値だけを、一度に工場出荷時の値に戻すことができます（セットモードリセット：46ページ）。

状態が変わらないようにロックする

誤って周波数などが変わってしまったりしないように、キーをロックすることができます。

①(BW)を押した後(BAND)を1秒以上押します。

ロックされているときには、“” がディスプレイに表示されます。
ロックを解除するときは、もう一度①(BW)を押した後(BAND)を1秒以上押します。



○ セットモードの『25 LOCK』により、DIALツマミやPTTスイッチをロックするように設定することができます。

スケルチのレベルを調節する

信号が入感していないときに出る、耳障りなノイズを消すことができます。

FM/AM用と、WFM用の2種類のスケルチがあり、受信しているモードのスケルチを調節することができます。

スケルチレベルを上げるとノイズは消えやすくなりますが、弱い電波が入感しなくなることがありますので、必要に応じて調節してください。

1. ①(BW)を押した後モニタースイッチを押します (SQ TYP)。

スケルチのレベル (LVL) を表示します。

2. DIALツマミをまわしてレベルを調節します。

FM/AMのときには、“LVL 0~LVL 15”まで調節できます(工場出荷時：LVL 1)。

WFMのときには、“LVL 0~LVL 8”まで調節できます(工場出荷時：LVL 2)。

3. ①(BW)を押した後モニタースイッチを押して完了します。



○ セットモード『41 SQL』でも、受信しているモードのスケルチを調節することができます。

レピータで交信する

ARS (Automatic Repeater Shift) 機能により、受信周波数をレピータの周波数 (439.000~440.000MHz) に合わせるだけで、自動的にレピータを使った交信ができます。




1. 受信周波数をレピータの周波数に合わせます。

ディスプレイに“ ” が点灯します。

2. PTTスイッチを押しながら送信します。

送信時は88.5Hzのトーン信号を伴いながら受信周波数より5MHz低い周波数で電波が発射されます。



○ レピータ運用時に①(BW)を押した後②(MV)を押すと、一時的に送信周波数と受信周波数を入れ替えることができます (リバース：RV)。リバースが動作しているときはディスプレイの“” が点滅します。

○ セットモードの『38 SHIFT』により、レピータのシフト幅を変更することができます。

○ セットモードの『33 RPT』により、レピータのシフト方向を設定することができます。

○ セットモードの『4 ARS』により、ARS機能の動作をオフにすることができます。

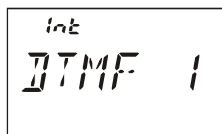
WIRESで交信する

VX-2は以下の操作方法で、簡単にWIRES局を利用したインターネット通信を行なうことができます。あらかじめお近くのWIRES局のアクセスコードや周波数をスタンダードのホームページ (<http://www.standard-comm.co.jp>) 等でご確認ください。

■ローカルのWIRES局をアクセスする (SRG方式)

SRG方式のWIRES局をアクセスするには、ローカルのWIRES局に対して、インターネットを介して接続したいWIRES局のアクセスコード（1桁のDTMF信号）を送出することでアクセスすることができます。あらかじめ、WIRES局に周波数とアクセスコードを確認してください。

1. ローカルのWIRES局の周波数に合わせます。
2. **[ⓧ]**を押してインターネットモードをオンにします。
ディスプレイの右上に“**ⓧ**”が表示します。
3. **[ⓧ]**を押したまま（約1秒以内）にし、DIALツマミを1クリック左右どちらかにまわし、アクセスコード（DTMFコード）を表示させて**[ⓧ]**を離します。
工場出荷時にはあらかじめ“DTMF 1”が設定されています。
4. DIALツマミをまわしてアクセスコードを選択し**[ⓧ]**を押します。
5. PTTスイッチを押してアクセスコードを送出後、受信状態にします。
PTTスイッチを押すと、自動的にアクセスコードが送出されます。
6. PTTスイッチを押しながらマイクに向かって話します。
PTTスイッチを再び押すと手順3.でセットしたアクセスコードが送出され、インターネットを介してWIRES局をアクセスすることができます。
7. インターネットモードをオフにするには**[ⓧ]**を押します。
ディスプレイの右上にある“**ⓧ**”の表示が消えます。



■ローカルのWIRES局をアクセスする (FRG方式)

FRG方式のWIRES局をアクセスするには、ローカルのWIRES局に対して、インターネットを介して接続したいWIRES局のアクセスコード（6桁のDTMF信号）を送出することでアクセスすることができます。アクセスコード（6桁のDTMF信号）はスタンダードのホームページ (<http://www.standard-comm.co.jp>) 等で一般利用者向けに「WIRES ID リスト」として公開されております。あらかじめ、WIRES局に周波数とアクセスコードを確認してください。

1. あらかじめアクセスコードと切断コードをDTMFメモリーに登録しておきます。
DTMFメモリーの登録方法は、36ページの「DTMFコードを登録する」を参照してください。
2. **[H/L]**を1秒以上押します（各種の設定を行なえるセットモードになります）。
3. DIALツマミをまわして『17 DTMF』を選択します。
4. **[H/L]**を押します。
5. DIALツマミをまわして「AUTO」を選択します。
6. **[H/L]**を1秒以上押してセットモードを終了します。
7. ローカルのWIRES局の周波数に合わせます。
8. PTTスイッチを押したままにします。
9. **[H/L]**を押し、DTMFメモリーのチャンネルを表示させます。
10. DIALツマミをまわして送出したいアクセスコードを登録したDTMFメモリーのチャンネル（CH 1～CH 9）を選択します。
11. **[H/L]**を押すと選択したアクセスコードが送出され、PTTスイッチを離して受信状態にします。
DTMFが送出され、インターネットを介してWIRES局をアクセスすることができます。
12. PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話します。
あとは、一般の交信と同様に行ないます。
13. 交信が終了したら、手順7～手順10を繰り返し、切断コード（# (F) 99999または# (F) 9999D）を登録したDTMFメモリーチャンネルを呼び出し、そのDTMFコードを送出します。

○ セットモード『23 INT MD』により、WIRES以外の方式を使用することもできます。

メモリーを使う

多彩なメモリー機能

VX-2には、通常のメモリーチャンネル（メモリー番号 1～900）の他に、

- 各周波数帯ごとに独立した、ワンタッチ呼び出し可能なホームチャンネル（18ページ参照）
- 各地域に合わせて受信できるチャンネルを選択できる、TV専用プリセットメモリー（22ページ参照）
- AM/FMラジオやTV放送、世界各地の主な放送などの周波数や放送局名が、あらかじめ登録されているプリセットメモリー（23ページ参照）
- 鉄道無線のチャンネルと周波数が、あらかじめ登録されている鉄道無線プリセットメモリー（24ページ参照）
- 受信したくない周波数をVFOスキャン中にスキップさせるスキップサーチメモリー（27ページ参照）
- 50組のプログラマブルメモリースキャン（PMS）用メモリーチャンネル（28ページ参照）

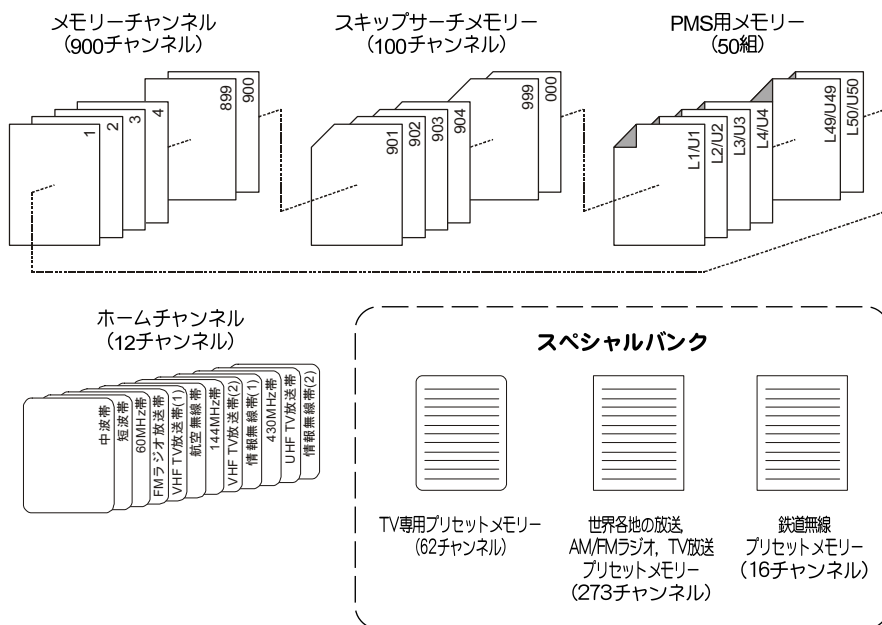
を搭載しております。

なお、通常のメモリーチャンネルとホームチャンネルおよびPMSメモリーチャンネルには、各チャンネルごとに個別に、運用周波数の他に、運用モード（電波型式）やその他の運用情報などのデータも同時にメモリーすることができます。

- メモリースキップ情報
- 運用周波数
- メモリータグ
- トーン情報
- 空線スケルチ情報
- 送信出力
- 運用モード
- レピータ情報
- DCS情報

また、上記で紹介しましたメモリーを使用目的ごとのバンクに分けて整理することができます。VX-2では20種類のメモリーバンクに分けておくことができ、1つのメモリーバンクには最大100個のメモリーチャンネルを登録することができます（19ページ参照）。

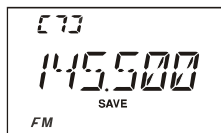
VX-2のメモリー構成



メモリーに書き込む

VX-2には900チャンネル（メモリー番号1～900）のメモリーがあります。

1. VFOモードにします（メモリーモードの時は **[V/M]** を押します）。
2. メモリーする周波数を選択します。
DIAL ツマミで周波数を選択します。



3. **[QW]** を1秒以上押します。

書き込みモードになり、以前書き込んだメモリー番号の次のメモリー番号がディスプレイに点滅します。

PTTスイッチを押すと、書き込みモードをキャンセルすることができます。



4. メモリーチャンネル番号を指定して書き込む場合は、DIAL ツマミをまわして希望するメモリーチャンネル番号を選択します。

すでに登録してあるメモリー番号は点灯し、まだ未登録のメモリー番号は点滅します。

[H/L] を押すたびに100チャンネルステップで早送りすることができます。

5. **[QW]** を押してメモリー書き込みを完了します（もとの周波数表示に戻ります）。

○ はじめてメモリーの書き込みをすると、あらかじめメモリーチャンネル1に145.000MHzが登録されていますので、書き込みたい周波数に書き替えてください。次回メモリーの書き込みをするときは、何も登録されていないメモリーチャンネルが呼び出されます。

○ すでに登録されているメモリーチャンネルに再度書き込み操作を行うと、新しい周波数に書き替えることができます。

○ セットモードの『27 MW MD』により、メモリー書き込み時に、何もメモリーされていない最も小さい番号のメモリー番号を表示することができます。

○ 1つのメモリーチャンネルに異なる受信周波数と送信周波数を登録することもできます（スプリットメモリー）。

1. 受信周波数をメモリーします。

2. VFOモードで送信周波数を選択します。

3. **[QW]** を1秒以上押します。

4. DIAL ツマミをまわして、受信周波数をメモリーしたチャンネル番号を選択します。

5. PTTスイッチを押しながら **[QW]** を押します。

異なる受信周波数と送信周波数を登録したメモリーチャンネルは、メモリーを呼び出したとき、ディスプレイに “**[+]**” が表示されます。

● メモリーした内容は、誤操作や静電気または電氣的雑音を受けたときに消失する場合があります。

また、故障や修理の際にも消失する場合がありますので、メモリーした内容は、必ず紙などに控えておくようにしてください。

メモリーを消す

1. メモリーモードにします（VFOモードの時は **[V/M]** を押します）。
2. **[QW]** を1秒以上押します。
3. DIAL ツマミをまわして、消したいメモリーチャンネルを選択します。
4. **[X]** を押して消去を完了します。

続けて他のメモリーを消すには、手順 2. から手順 4. を繰り返します。

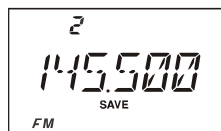
○ 消したメモリーチャンネルに周波数などを新たに書き込む前であれば、上記のメモリー消去の操作をもう一度行うことによって消去した内容を復活できます。

● メモリーチャンネル1は消去できません。

メモリーを呼び出す

■メモリーを呼び出す

1. メモリーモードにします (VFOモードの時は **[V/M]** を押します) 。
最後に使用したメモリーチャンネルが呼び出されます。
2. DIALツマミをまわして呼び出すメモリーチャンネルを選択します。
[V/M] を押すと、VFOモードに戻り、メモリーモードに移行する前に選択していた周波数になります。



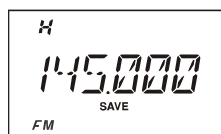
- DIALツマミをまわしたときは、周波数が書き込まれていないメモリーチャンネルはスキップされます。
- 工場出荷時では、メモリーチャンネル1にデュアルレシーブの優先チャンネルとして使用されるプライオリティメモリーチャンネルが設定されています。メモリー番号には “PRI 1” と表示されます (34ページ参照)。
- **[BW]** を押した後に **[V/M]** を押すと、チャンネル番号表示が “**ト ュ ン**” (メモリーチューン : M-TUNE) に変わり、メモリーチャンネルの内容を一時的に変更できます。
もう一度 **[BW]** を押した後に **[V/M]** を押すと、もとの周波数に戻ります (チャンネル番号表示に戻ります)。
- **[BW]** を1秒押した後に **[V/M]** を押すと、周波数は変わらずにVFOモードに戻ります (メモリーVFO転送)。
- メモリーモードだけで運用することもできます。 **[V/M]** を押しながら電源をオンにすると、メモリーチャンネルだけを使う状態 (メモリーオンリーモード) になります。もう一度 **[V/M]** を押しながら電源をオンにすると、メモリーオンリーモードは解除されます。

■ホームチャンネルを呼び出す

[HM/RTV] を押します。

[HM/RTV] を押したときに選択されていた周波数帯のホームチャンネル (右下表) が呼び出されます。

もう一度 **[HM/RTV]** を押すと、ホームチャンネルを呼び出す前に選択していた周波数になります。

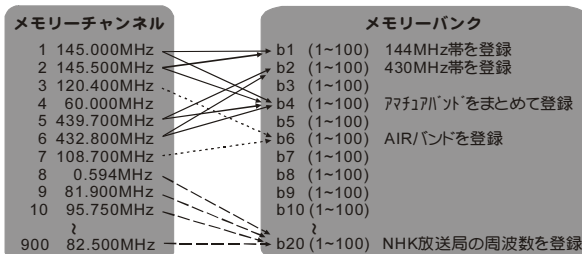


- ホームチャンネルの周波数を変更することができます。
 1. VFOモードにします。
 2. 変更したい周波数をDIALツマミで選択します。
 3. **[BW]** を1秒以上押して書き込みモードにします。
 4. **[HM/RTV]** を押すと書き込みが終了します。
変更した周波数の周波数帯におけるホームチャンネルが変更されます。
- DIALツマミをまわして周波数を選択するとVFOモードに戻ります。

周波数帯	周波数
144MHz帯	145.000MHz
TV-VHF放送帯 (2)	175.750MHz
情報無線帯 (1)	379.000MHz
430MHz帯	433.000MHz
TV-UHF放送帯	481.750MHz
情報無線帯 (2)	859.000MHz
AMラジオ放送帯(中波)	540kHz
短波帯	1.800MHz
60MHz帯	60.000MHz
FMラジオ放送帯	76.000MHz
TV-VHF放送帯 (1)	95.750MHz
航空無線帯	108.000MHz

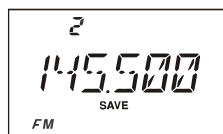
メモリーバンクを使う

メモリーチャンネルを使用目的ごとのバンクに分けて整理することができます。VX-2では20種類のメモリーバンクに分けることができ、1つのメモリーバンクには最大100個のメモリーチャンネルを登録できます。また、メモリーチャンネルを複数のメモリーバンクに登録することもできます。メモリーバンクに登録したメモリーチャンネルを変更または更新すると、メモリーバンク内のメモリーチャンネルの内容も変更されます。



■メモリーバンクに登録する

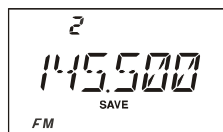
- メモリーモードにします (VFOモードの時は **[V/M]** を押します)。
- メモリーバンクに登録するメモリーチャンネルを呼び出します。
DIAL ツマミでメモリーチャンネルを選択します。
- [BW]** を1秒以上押します。
メモリーの書き込みモードになります。
- DIAL ツマミをまわしてメモリーバンクの番号 (1~20) を指定します。
—メモリーバンク選択時の注意—：メモリーバンクを選択時にメモリーチャンネル、スキップサーチメモリーチャンネル、プログラマブルメモリーチャンネルも表示されます。表示される順序はDIAL ツマミをまわすと
“1⇔2⇔3⇔・・・⇔L50⇔U50⇔b1⇔b2・・・b20⇔1・・・” と表示され、太文字がメモリーバンクになります (メモリーチャンネルが1に近ければDIAL ツマミを左へ、またメモリーチャンネルがU50に近ければ右にまわすとメモリーバンクが表れます。また、**[H/L]** を押すと100桁ずつ早送りすることができます。
- [BW]** を押して登録が完了します。



- スペシャルバンクのプリセットメモリーをメモリーバンクに登録する場合は23ページの「聴きたい放送局をメモリーバンクに登録する」を参照してください。

■メモリーバンク内のメモリーチャンネルを呼び出す

- メモリーモードにします (VFOモードの時は **[V/M]** を押します)。
- [BAND]** を押し、メモリーバンクを選択します。
[BAND] を押すたびに“MEMORY”⇔“BANK(番号)”が切り替わります。
メモリーバンク番号がディスプレイに表示され、約1秒後にバンク内のメモリーチャンネルを表示します。
- 他のメモリーバンク番号にするときは、**[BW]** を押した後 **[BAND]** を押します。
- DIAL ツマミをまわしてメモリーバンク (BANK 1~BANK 20) を選択します。
- [BAND]** を押して確定します。
- DIAL ツマミをまわしてメモリーを選択します。
メモリーバンク内のメモリーチャンネルだけを選択することができます。
さらに、他のメモリーバンクを選択するときは、手順3.~手順5.を行いません。
- 通常のメモリーモードに戻すときは、**[BAND]** を押します。
ディスプレイに“MEMORY”が表示され、通常のメモリーモードに戻ります。



メモリータグを使う (1)

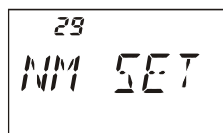
■ メモリーに名前をつける

メモリーチャンネル、ホームチャンネルなどにコールサインや放送局名などの名前（メモリータグ）をつけることができます（最大6文字）。

入力できる文字（文字種）は、英字、数字、記号があります。

<<例>>「VXSTD 1」を入力する場合

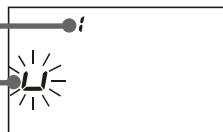
1. メモリーモードにします（VFOモードの時は **[V/M]** を押します）。
2. 名前をつけるメモリーチャンネルを呼び出します。
3. **[H/L]** を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
4. DIALツマミをまわして『29 NM SET』を選択します。



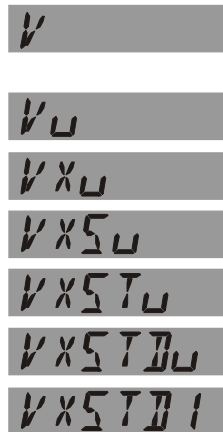
5. **[H/L]** を押します。
ディスプレイにカーソルが点滅します。

カーソルの桁数を表示

カーソルが点滅



6. DIALツマミをまわして文字種を「V」に指定します。
スペース ⇄ 記号 ⇄ 数字 ⇄ アルファベット ⇄ スペース ⇄ ...
入力できる文字は次ページの“文字一覧表”を参照してください。
7. **[V/M]** を押してカーソルを移動します。
8. DIALツマミをまわして文字種を「X」に指定します。
9. **[V/M]** を押してカーソルを移動します。
10. DIALツマミをまわして文字種を「S」に指定します。
11. **[V/M]** を押してカーソルを移動します。
12. DIALツマミをまわして文字種を「T」に指定します。
13. **[V/M]** を押してカーソルを移動します。
14. DIALツマミをまわして文字種を「D」に指定します。
15. **[V/M]** を押してカーソルを移動します。
16. DIALツマミをまわして文字種を「1」に指定します。
17. **[H/L]** を1秒以上押して完了します。
メモリーチャンネルにメモリータグが書き込まれ、セットモードを終了します。



- 文字を修正したいときは、**[BAND]** (左方向へ移動) または **[V/M]** (右方向へ移動) を押して修正したい桁にあわせ、DIALツマミをまわして文字を選択します。
- ホームチャンネルに名前をつける場合は、あらかじめ手順 1. でVFOモードにより名前をつけたいホームチャンネルを **[MEM]** を押して呼び出しておきます。
- メモリーバンク内のメモリーチャンネルに名前をつける場合は、手順 2. で「メモリーバンク内のメモリーチャンネルを呼び出す」を参照し、メモリーチャンネルを呼び出しておきます。

メモリータグを使う (2)

■ メモリータグを表示する

- 1. メモリーモードにします (VFOモードの時は **V/M** を押します) .
- 2. 名前をつけたメモリーチャンネルを呼び出します.
- 3. **H/L** を1秒以上押します.
各種の設定を行なえるセットモードになります.
- 4. DIALツマミをまわして『28 NAME』を選択します.



- 5. **H/L** を押します.
- 6. DIALツマミをまわして「ALPHA」を選択します.
- 7. **H/L** を1秒以上押します.
セットモードを終了し、周波数表示からメモリータグ表示にかわります.
メモリータグ表示を周波数表示に戻すには、手順 **6.** の項目で「FREQ」を選択します.

○ 入力できる文字 (文字種) は、下記の“文字一覧表”をご覧ください.

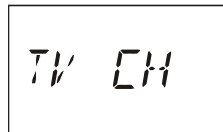
文字一覧表													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	スペース	+
—	/	[]	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

スペシャルバンクのTV専用メモリーでTV放送を聴く

TV専用メモリーを呼び出すとTV放送の音声を簡単な操作で聴くことができます。ディスプレイにはTV放送の周波数とチャンネルが同時に表示されますので簡単に選択できます。また、現在いる場所で受信できるTV放送だけを自動的にスキャンし、選択することができます。

■ TV放送をチャンネル番号で選択する

1. **[BW]**を押した後に**[X]**を押します。
スペシャルバンクになります
2. **[BAND]**を数回押して「TV CH」を選択します。
選択後プリセットされているTVチャンネルと周波数を表示します。



3. DIALツマミをまわし、聴きたいTVチャンネルを選択します。

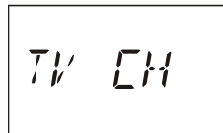


4. TV放送の受信を終了するときには、**[BW]**を押した後に**[X]**を押します。

■ 現在いる場所で受信できるTVチャンネルを選択する

次の操作を行うと、現在いる場所で受信できるTV放送だけを選択できるようになります。

1. **[BW]**を押した後に**[X]**を押します (SP BNK)。
スペシャルバンクになります
2. **[BAND]**を数回押して「TV CH」を選択します。
3. **[BAND]**を1秒以上押して、離すとスキャンを開始します。
TV放送のすべてのチャンネルをスキャンした後自動的にスキャンは停止し、受信信号のなかったチャンネルは表示しないように設定されます。



4. 上記の方法でTV放送の選択を行うと、受信できるTV放送だけを選択することができます。

- 全チャンネル受信できる状態（工場出荷時と同じ状態）に戻すには、**[BW]**を押した後**モニタースイッチ**を押して、スケルチレベルを“0”にセットしてからスキャンをしてください。
- 放送のないチャンネルが表示される場合は、スケルチレベルを上げてからもう一度上記の操作を行ってください。
- 受信する地域が変わった場合は、上記の操作を繰り返して設定しなおしてください。
- TV放送のチャンネルを選択しているときに、**[BW]**を1秒以上押した後**[X]**を押すと、そのチャンネルをスキップさせることができます。また、チャンネルを復活させる場合は、**[BW]**を1秒以上押した後、**DIALツマミ**でスキップさせたTVチャンネルに合わせ、**[X]**を押すもとに戻ります。
- 登録されている各TVチャンネル（62チャンネル）の音声周波数は58ページの“TVチャンネル/周波数一覧表”を参照してください。
- よく聴くTV放送局をメモリーバンクに登録することができます（「聴きたい放送局をメモリーバンクに登録する」を参照：23ページ）。
ー**メモリーバンク選択時の注意**ー：メモリーバンク以外にTVチャンネルも表示されます。表示される順序はDIALツマミをまわすと“1⇄2⇄3⇄・・・62⇄b1⇄b2・・・b20⇄1・・・”と表示され、太文字がメモリーバンクになります（TVチャンネルが1に近ければDIALツマミを左へ、またTVチャンネルが62に近ければ右にまわすとメモリーバンクが表れます。また、誤ってTVチャンネル1～62に登録しようとしても、“TV ERR”メッセージが表示され登録されません。

スペシャルバンクを呼び出して世界各地の放送, AM/FMラジオ, TV放送を聴く

放送局専用のスペシャルバンクから世界各地の主な放送, AM/FMラジオ放送, TV放送を聴くことができます。全部で273チャンネルあります。

よく聴く放送局を普通のメモリーに書き込むことができます。周波数だけでなく放送局名もメモリーします。

スペシャルバンクに登録されている周波数は, “プリセットされている放送局周波数一覧表”を参照してください(54ページ参照)。

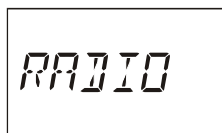
■ 聴きたい放送局を選択する

1. **[BANK]**を押した後に**[H/L]**を押します (SP BNK)。

スペシャルバンクになります

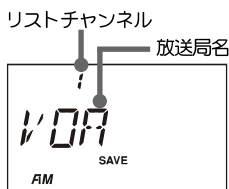
2. **[BAND]**を数回押して「**RADIO**」を選択します。

選択後, 登録されている放送局のリストチャンネルと放送局名を表示します。



3. **DIAL**ツマミをまわして聴きたい放送局を選択します。

放送局名が表示されているときに**[H/L]**を押すと周波数表示になります。もう一度押すと周波数表示が放送局名表示に戻ります。



4. 放送局の受信を中止するときは, **[BANK]**を押した後に**[H/L]**を押します。

- スペシャルバンクは他の周波数のデータに書き換えることはできません。
- **[BAND]**を1秒以上押して離すとスペシャルバンクに登録されている放送局のチャンネルをスキャンします。スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し, その周波数を受信します。スキャンが停止したときの動作を設定することができます (「スキャンストップ時の受信方法を設定する」を参照: 27ページ)
- AMラジオ放送のバンドを受信するときは, 市販の外部アンテナの取り付けをおすすめします。
- 受信する時間帯や電波の状態が悪いときは, 受信できない場合があります。
- 各放送局は54ページに示す一覧表以外にも受信できる周波数があります。詳しくは市販されている周波数帳などを参考にしてください。

■ 聴きたい放送局をメモリーバンクに登録する

よく聴く放送局を20種類のメモリーバンクに登録することができます。

1. **DIAL**ツマミをまわして聴きたい放送局を選択します。

2. **[BANK]**を1秒以上押します。

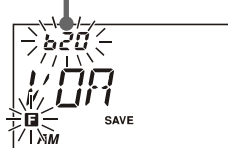
書き込みモードになり, ディスプレイに“**B**”とバンク番号が点滅します。
PTTスイッチを押すと, 登録をキャンセルすることができます。

3. メモリーバンク番号を指定して書き込む場合は, **DIAL**ツマミをまわして希望するメモリーバンク番号を選択します。

4. **[BANK]**を押してメモリー書き込みを完了します。

選択していた周波数表示に戻ります。

メモリーバンク番号



スペシャルバンクを呼び出してJR鉄道無線を聴く(1)

主要なJR鉄道無線のチャンネルがあらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。
よく聴くJR鉄道無線のチャンネルを普通のメモリーに書き込むことができます。
また、2280Hzの空線信号の音を消して、待ち受け受信をすることができます。

■JR鉄道無線のチャンネルを選ぶ

- 1. **[BW]**を押した後に**[⊗]**を押します (SP BNK).
スペシャルバンクになります。
- 2. **[BAND]**を数回押して「JR CH」を選択します。
選択後、プリセットされているJR鉄道無線の周波数を表示します。
- 3. DIALツマミをまわして希望のJR鉄道無線の周波数を選択します(下表参照)。
- 4. 鉄道無線の受信を中止するときは、**[BW]**を押した後に**[⊗]**を押します。



リストCH	チャンネル	周波数(MHz)	リストCH	チャンネル	周波数(MHz)	リストCH	チャンネル	周波数(MHz)	リストCH	チャンネル	周波数(MHz)
1	JR-1	352.5375	5	JR-3	352.5625	9	JR-5	352.5875	13	JR-7	352.6125
2	JR-1T	336.0375	6	JR-3T	336.0625	10	JR-5T	336.0875	14	JR-7T	336.1125
3	JR-2	352.5500	7	JR-4	352.5750	11	JR-6	352.6000	15	JR-8	352.6250
4	JR-2T	336.0500	8	JR-4T	336.0750	12	JR-6T	336.1000	16	JR-8T	336.1250

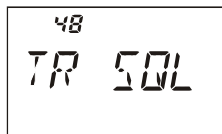
- スペシャルバンクに登録されているJR鉄道無線の周波数
- 周波数が表示されているときに**[M/L]**を押すとチャンネル表示になります。もう一度押すとチャンネル表示が周波数表示に戻ります。
- スペシャルバンクは、他の周波数のデータに書き換えることはできません。
- **[BAND]**を1秒以上押して離すとスペシャルバンクに登録されているJR鉄道無線のチャンネルをスキャンします。スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。スキャンが停止したときの動作を設定することができます（「スキャンストップ時の受信方法を設定する」を参照：27ページ）。
- よく聴くJR鉄道無線をメモリーバンクに登録することができます（「聴きたい放送局をメモリーバンクに登録する」を参照：23ページ）。

スペシャルバンクを呼び出してJR鉄道無線を聴く(2)

■JRの空線信号音を消す(空線スケルチ機能)

通話が行なわれていないときに聴こえる、「ピー」という2280Hzの空線信号音を消すことができます。

1. スペシャルバンクにより、聴きたいJR鉄道無線の周波数を選択します。
2. **[H/L]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
3. DIALツマミをまわして『48 TR SQL』を選択します。
4. **[H/L]**を押します。
5. DIALツマミをまわして「JR」を選択します。
6. **[H/L]**を1秒以上押します。
ディスプレイの右上に“SO”が点灯します。
空線スケルチを解除するには、上記の操作を繰り返し、手順5.の項目で「OFF」を選択します。

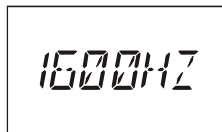
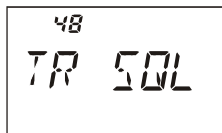


- 2280Hzの空線信号を受信すると、スケルチが動作し空線信号音を消します。
また、2280Hzの空線信号がなくなるとスケルチが解除されます。
- トーンスケルチ/DCS機能が動作中に空線スケルチ機能を選択しても、トーンスケルチ/DCS機能が優先されるため、空線スケルチ機能は動作しません。
- 信号が弱いときやノイズが多いときなどは、動作しないことがあります。

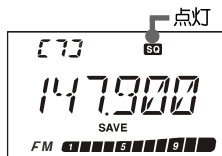
■JR以外の空線信号音を消す(可変型空線スケルチ機能)

300Hz～3000Hzの空線スケルチの周波数を100Hzステップで設定することができます。

1. VFOモードまたはメモリーモードにより、聴きたい鉄道無線の周波数を選択します。
2. **[H/L]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
3. DIALツマミをまわして『48 TR SQL』を選択します。
4. **[H/L]**を押します。
5. DIALツマミをまわして「PR FRQ」を選択します。
6. **[BAND]**または**[V/M]**を押します。
7. DIALツマミをまわして空線信号が消える周波数に選択します。
300Hz～3000Hzの空線スケルチの周波数を100Hzステップで設定することができます(工場出荷時：1600Hz)。



8. **[H/L]**を1秒以上押します。
ディスプレイの右上に“SO”が点灯します。
空線スケルチを解除するには、上記の操作を繰り返し、手順5.の項目で「OFF」を選択します。



- 設定した周波数の空線信号を受信すると、スケルチが動作し空線信号音を消します。
また、設定した周波数の空線信号がなくなるとスケルチが解除されます。
- トーンスケルチ/DCS機能が動作中に空線スケルチ機能を選択しても、トーンスケルチ/DCS機能が優先されるため、空線スケルチ機能は動作しません。
- 信号が弱いときやノイズが多いときなどは、動作しないことがあります。

スキャンを使う

VX-2は、" VFOスキャン ", " プログラブルメモリスキャン ", " メモリスキャン " および " 特定のメモリーチャンネルだけをスキャン " の4つのスキャンを行うことができます。

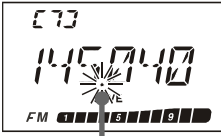
VFOスキャン (1)

- 1. VFOモードにし、スキャンするバンドを選択します。
- 2. **[BAND]** を押したままにします。
- 3. DIAL ツマミをまわしてスキャンする範囲を設定します。

表示	動作状態
ALL	現在の周波数から0.5MHz～999MHz内の全バンドをスキャンします。
(PMS番号)	PMSスキャンのショートカット (28ページの手順 1.～手順 2.をショートカット) です。 あらかじめPMSメモリーが登録してある場合のみ、PMSメモリー番号を表示します。 DIAL ツマミ をまわしてスキャンしたいPMSメモリーを指定し、PMSの下限と上限の範囲をスキャンします。
± 1MHz	現在の周波数を中心に、スタートした周波数のバンド (下表参照) 内を± 1MHzの範囲でスキャンします。
± 2MHz	現在の周波数を中心に、スタートした周波数のバンド (下表参照) 内を± 2MHzの範囲をスキャンします。
± 5MHz	現在の周波数を中心に、スタートした周波数のバンド (下表参照) 内を± 5MHzの範囲をスキャンします。
BAND	現在の周波数からスキャンし、スタートした周波数のバンド (下表参照) 内をスキャンします。

- 4. **[BAND]** を離すとスキャン(SCAN)が開始されます。

スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。
スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイの照明が点灯します。
5秒経過すると、スキャンを再開します。



デシマルポイントが点滅

- 5. スキャンの方向を変える場合はDIAL ツマミをまわします。
左にまわすと周波数が低くなる方向に、右にまわすと高くなる方向に変わります。
- 6. スキャンを中止するときは、**[BAND]** またはPTTスイッチを押します。

- スキャン中に、**[BW]** を押してからモニタースイッチを押し、**DIAL ツマミ**をまわすと、スケルチを調節することができます。スケルチの調節を終了するには、**[BW]** を押してからモニタースイッチを押します
- 周波数帯と受信周波数の関係は次のようになります。

周波数帯	受信周波数	周波数帯	受信周波数
AMラジオ放送帯(中波)	0.504～1.8MHz	144MHz帯	137～174MHz
短波帯	1.8～30MHz	TV-VHF放送帯 (2)	174～222MHz
60MHz帯	30～76MHz	情報無線帯 (1)	222～420MHz
FMラジオ放送帯	76～90MHz	430MHz帯	420～470MHz
TV-VHF放送帯 (1)	90～108MHz	TV-UHF放送帯	470～770MHz
航空無線帯	108～137MHz	情報無線帯 (2)	770～999MHz

- 周波数帯のエッジに達したときには「ピピッ」とピープ音が鳴って隣の周波数帯に移り、その周波数帯をスキャンします。
- スキャンが停止したときの動作を設定することができます。27ページの「スキャンストップ時の受信方法を設定する」を参照してください。
- セットモードの『47 VFO MD』により、現在のバンド内のみをスキャンします。
- セットモードの『37 SCN LMP』により、スキャンストップ時の照明点灯をオフにすることができます。

VFOスキヤン (2)

■ スキヤンしたくない周波数をスキップする

スキヤンをしているとき、受信したくない周波数でもスキヤンが止まることがあります。このような周波数はあらかじめ設定しておくことで、スキヤン中にその周波数を受信しないことが可能となります。この設定するメモリーを“スキップサーチメモリー”といい、100チャンネル（メモリーチャンネル901~000）あります。

● スキヤンしたくない周波数を設定する

1. VFOスキヤンを開始します (26ページ参照)。
2. スキヤン中、受信したくない周波数で停止したら、**(BW)**を1秒以上押します。
何も書き込まれていない最も小さい番号のスキップサーチメモリーチャンネルが点滅します。
DIALツマミをまわしてスキップサーチメモリーチャンネルを指定することもできます。
3. **(BW)**を押します。
スキップサーチメモリーへの書き込みが完了し、スキヤンが再開します。
あらかじめスキヤンしたくない周波数をスキップサーチメモリーへ書き込んでおくこともできます。この場合、手順 1. のかわりにVFOモードで周波数をあわせ、手順 2.、手順 3. を行います。
4. スキヤンを中止するときは、**(BAND)**またはPTTスイッチを押します。

● スキップサーチメモリーを消す

スキップサーチメモリーは、下記の操作を行うことにより消すことができます。スキップサーチメモリーに設定してあった周波数は、再びスキヤンするようになります。

1. メモリーモードにします。
2. **(BW)**を1秒以上押します。
3. **DIAL**ツマミをまわして消したいスキップサーチメモリーを選択します。
メモリーチャンネル901~000のスキップサーチメモリーから選択します。
4. **(X)**を押して消去を完了します。
スキップサーチメモリーの内容が消去されます。
続けて他のスキップメモリーを消すには、手順 2. から手順 4. を繰り返します。

- 消したスキップサーチメモリーチャンネルに周波数などを新たに書き込む前であれば、上記のメモリー消去の操作をもう一度行うことによって消去した内容を復活できます。

スキヤンストップ時の受信方法を設定する

スキヤンが停止したときの動作を設定できます。設定できる動作は次の5種類です。

- 3秒間受信し、スキヤンを再開する（選択時の表示は“3 SEC”）。
- 5秒間受信し、スキヤンを再開する（選択時の表示は“5 SEC”）：工場出荷時の設定。
- 10秒間受信し、スキヤンを再開する（選択時の表示は“10 SEC”）。
- 信号がなくなるまで受信し、信号がなくなってから2秒後にスキヤンを再開する（選択時の表示は“BUSY”）。
- スキヤンを中止し、その周波数を受信する（選択時の表示は“HOLD”）。

1. **(H/L)**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミをまわして『31 RESUME』を選択します。
3. **(H/L)**を押します。
4. **DIAL**ツマミをまわして使用する受信方法を“3 SEC”、“5 SEC”、“10 SEC”、“BUSY”、“HOLD”のいずれから選択します。
5. **(H/L)**を1秒以上押して完了します（もとの周波数表示に戻ります）。

- この設定は、VFOスキヤン、プログラマブルメモリースキヤン、メモリースキヤン、デュアルレシーブに共通です。

プログラマブルメモリスキャン(PMS)

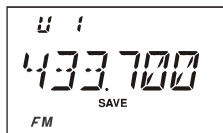
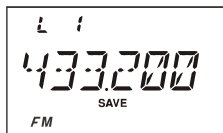
■プログラマブルメモリーに書き込む

スキャンしたい周波数範囲の下限周波数をメモリーチャンネルの“L*”，上限周波数を“U*”（*は1～50の任意の数字で、下限のメモリーと上限のメモリーは同じ番号にしてください）に登録します。

17ページを参照し、下限周波数と上限周波数をメモリーチャンネルに登録します。

下限周波数／上限周波数メモリー（プログラマブルメモリーチャンネル）は50組（L1/U1～L50/U50）あります。プログラマブルメモリーチャンネルは、メモリーチャンネルの最後の方にありますので、メモリーチャンネルが一桁の場合はDIALツマミを左にまわすと早く選択できます。

＜＜例＞＞ 下限周波数に433.200MHz，上限周波数に433.700MHzをメモリーします。



■プログラマブルメモリスキャンをする

同一周波数帯内の指定した周波数範囲内をDIALツマミで選択したり，スキャンをすることができます。

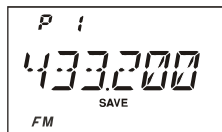
1. メモリーモードにし，下限周波数または上限周波数のメモリーを呼び出します。

2. (BAND)を押した後(V/M)を押します。

“L 1”（または“U 1”）が消え，“P 1”が表示されます。

“P 1”が表示中に，(BAND)を押した後(V/M)を押すと“L 1”（または“U 1”）の表示に戻ります。

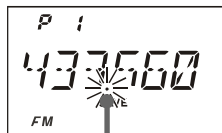
DIALツマミをまわすと，下限と上限の周波数範囲を選択することができます。



3. (BAND)を1秒以上押して離すとスキャン(SCAN)が開始します。

スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し，その周波数を受信します。スキャンが停止しているときには，デシマルポイントが点滅し，ディスプレイの照明が点灯します。

5秒経過すると，スキャンを再開します。



デシマルポイントが点滅

4. スキャンの方向を変える場合は，DIALツマミをまわします。

左にまわすと周波数が低くなる方向に，右にまわすと高くなる方向に変わります。

5. スキャンを中止するときは，(BAND)またはPTTスイッチを押します。

(BAND)を1秒以上押しながらDIALツマミをまわすと，他のPMSメモリーを選択することができます。

○すでにL1/U1～L50/U50に登録されている場合は，26ページのVFOスキャン（または29ページのメモリースキャン）の操作によりPMS番号を選択するだけで，上記の手順1～手順2の操作をショートカットして簡単にPMSスキャンを行うことができます。

○“L*”，“U*”にスキップメモリー（P**）が指定されている場合や下限周波数／上限周波数が正しく設定されていない場合は，メモリーチューン動作（“とん”）になります。

○スキャン中にDIALツマミをまわすと，スキャンの方向を変更できます。

○スキャン範囲の上限または下限に達したときには「ピピッ」とビープ音が鳴り，スキャンが繰り返されます。

○スキャン中に，(BAND)を押した後モニタースイッチを押し，DIALツマミをまわすと，スケルチを調節することができます。

○セットモードの『37 SCN LMP』により，スキャンストップ時の照明点灯をオフにすることができます。

● 下限周波数と上限周波数との間には，必ず100kHz以上開けるようにしてください。

メモリスキャン

メモリーされている周波数をメモリーチャンネル番号順にスキャンします。

1. メモリーモードにし、メモリーチャンネルを呼び出します。
2. **[BAND]**を押したままにします。
3. **DIAL**ツマミをまわしてスキャンする範囲を設定します。

表示	動作状態
ALL CH	現在指定しているメモリーから、すべてのメモリーチャンネル(1~900)をスキャンします。 (特定メモリーを指定している場合は、すべての特定メモリーチャンネルをスキャンします：30ページ参照)
(PMS番号)	PMSスキャンのショートカット(28ページの手順 1. ~手順 2. をショートカット)です。 あらかじめPMSメモリーが登録してある場合のみ、PMSメモリー番号を表示します。 DIAL ツマミをまわしてスキャンしたいPMSメモリーを指定し、PMSの下限と上限の範囲をスキャンします。
BAND	現在指定しているメモリーと、同じ周波数帯* 内の周波数が書き込まれているメモリーチャンネルだけをスキャンします。 (特定メモリーを指定している場合は、同じ周波数帯* 内の周波数が書き込まれている特定メモリーチャンネルだけをスキャンします：30ページ参照)

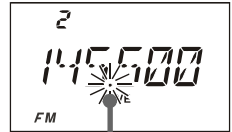
*：周波数帯と受信周波数の関係は26ページの下表を参照してください。

4. **[BAND]**を離すとスキャン(SCAN)が開始します。

スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。

スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイが点灯します。

5秒経過すると、スキャンが再開されます。



デシマルポイントが点滅

5. スキャンの方向を変える場合は**DIAL**ツマミをまわします。

左にまわすとメモリーチャンネル番号が小さい方向に、右にまわすと大きい方向にスキャンします。

6. スキャンを中止するときは、**[BAND]**またはPTTスイッチを押します。

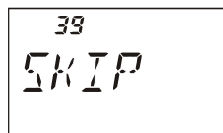
- スキャン中に**DIAL**ツマミをまわすと、スキャンの方向を変更できます。
- スキャン中に、**[BW]**を押した後**モニタースイッチ**を押し、**DIAL**ツマミをまわすと、スケルチを調節することができます。
- スキャンが停止中に、**[BW]**を押した後**[V/M]**を押すと、一時的にそのチャンネルをスキャンしないようにすることができます。
- スキャンが停止したときの動作を設定することができます。27ページの“スキャンストップ時の受信方法を設定する”を参照してください。
- スキャンするメモリーチャンネルは通常のメモリー番号 1~900をスキャンします。
- メモリーバンクを呼び出しているときは、メモリーグループ内のメモリーチャンネルのみをスキャンします。
- スキャン中にメモリー1を通過したときには「ピピッ」とビープ音が鳴り、スキャンが繰り返されます。このビープ音をセットモードの『19 EDG BP』により、オフにすることができます。
- セットモードの『37 SCN LMP』により、スキャンストップ時の照明点灯をオフにすることができます。

特定のメモリーチャンネルのみをスキャンする

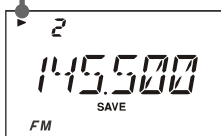
メモリスキャン時にスキャンする必要のないメモリーチャンネルにはスキップメモリーを、特定のメモリーチャンネルのみをスキャンしたいときには特定メモリーを設定しておく、特定のメモリーチャンネルのみをスキャンできます。

■スキップメモリー／特定メモリーを設定する

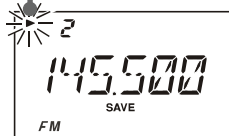
1. メモリーモードにし、スキップメモリーまたは特定メモリーを設定するメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **[H/L]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
3. DIALツマミをまわして『39 SKIP』を選択します。
4. **[H/L]**を押します。
5. DIALツマミをまわして「SKIP」または「ONLY」を選択します。
スキップメモリーのときは「SKIP」、特定メモリーのときは「ONLY」を選択します。
6. **[H/L]**を1秒以上押します。
スキップメモリー／特定メモリーを解除するには、上記の操作を繰り返し、手順5.の項目で「OFF」を選択します。



スキップメモリーの時に表示

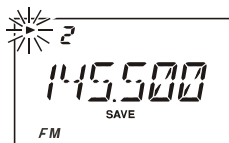


特定メモリーの時に点滅



■特定メモリーを設定したメモリーチャンネルのみをスキャンする

1. メモリーモードにし、“特定メモリー”が設定されているメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **[BAND]**を押したままにします。
3. DIALツマミをまわしてスキャンする範囲を設定します。



表示	動作状態
ALL CH	現在指定している特定メモリーから、すべての特定メモリーチャンネルをスキャンします。
BAND	現在指定している特定メモリーと、同じ周波数帯*内の周波数が書き込まれている特定メモリーチャンネルだけをスキャンします。

*：周波数帯と受信周波数の関係は26ページの下表を参照してください。

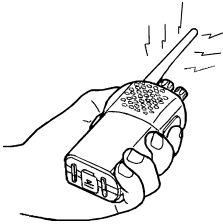
4. **[BAND]**を離すとスキャン(SCAN)が開始します。
特定メモリーが設定されているメモリーチャンネルのみをメモリスキャンします。
スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイが点灯します。
5秒経過すると、スキャンが再開されます。
5. スキャンを中止するときは、**[BAND]**またはPTTスイッチを押します。
もう一度**[BAND]**を1秒以上押して離すとスキャンが再開されます。

周波数を調べる (チャンネルカウンター)

およその周波数しかわからないトランシーバー（たとえば特定小電力のようなチャンネル表示のトランシーバーなど）の周波数を知りたいときに、本機を送信しているトランシーバーに近づけて周波数を測定することができます。

設定した周波数から“ $\pm 5\text{MHz}$ ”の範囲内を高速でサーチし、最も強い信号を探し出して周波数を表示し、専用のチャンネルカウンタメモリーへ書き込みます。

このチャンネルカウンターはあくまでも簡易的なものであり、測定した周波数は概略値です。



1. おおよその周波数にあわせ、送信しているトランシーバーに本機を近づけます。

2. **[MD]**を押したまま、DIALツマミをまわして『CH CNT』を選択します。

スペシャルサーチモード (SPC S) になり、チャンネルカウンターを選択することができます。

CH CNT

3. **[MD]**を離すとチャンネルカウンターが動作し、サーチを開始します。

サーチ中は“COUNT 1”…“COUNT 1”とカウントします。

約50dBのアッテネーターが自動的に入り、至近距離で発射している電波のみ受信します。

サーチ終了後、周波数を表示します。

信号を探し出せなかったときは、“---NO---”が表示されVFOモードに戻ります。

422050
FM
SAVE

4. チャンネルカウンターを中止するときは、**[MD]**を押します。

チャンネルカウンターメモリーに書き込まれた周波数は消去されます。

○ チャンネルカウンターメモリーに書き込まれた周波数は、通常のメモリーチャンネルに書き込むことができます。

● トランシーバーの送信出力が大きい場合は、VX-2が不要な電波で誤動作しないようトランシーバーとの距離を調節してください。

サーチ幅を変更する

1. **[H/L]**を1秒以上押します（各種の設定を行なえるセットモードになります）。

2. DIALツマミをまわして『10 CH CNT』を選択します。

3. **[H/L]**を押します。

4. DIALツマミをまわして希望のサーチ幅を選択します。

$\pm 5\text{MHz}$ / $\pm 10\text{MHz}$ / $\pm 50\text{MHz}$ / $\pm 100\text{MHz}$ から選択することができます（工場出荷時： $\pm 5\text{MHz}$ ）。

サーチ幅を狭くするほど、探し出す時間は短くなります。

5. **[H/L]**を1秒以上押します。

スマートサーチ

選択したバンド内をサーチし、信号を受信した周波数を一時的なメモリー（スマートメモリー）に書き込みます。

スマートメモリーは、DIALツマミをまわすと選択できます。

1. スマートサーチを開始する周波数を選択します。

2. (MD)を押したまま、DIALツマミをまわして『S SRCH』を選択します。

スペシャルサーチモード（SPC S）になり、スマートサーチを選択することができます。

3. (MD)を離すとスマートサーチのモードになり、(BAND)を1秒以上押して離すとサーチを開始します。

バンド内を1回サーチするとスマートサーチは終了します。

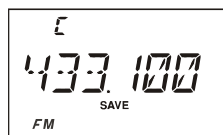
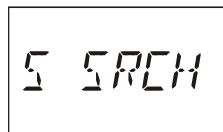
ただし、バンド内を1回サーチする前にスマートメモリーが一杯になると、スマートサーチは終了します。

4. DIALツマミをまわして、スマートメモリーを呼び出します。

スマートサーチを開始した周波数に“C”，開始した周波数より高い周波数には“1～15”，開始した周波数より低い周波数には“－1～－15”がディスプレイに表示されます。

5. スマートサーチを終了するときは、(MD)を押します。

スマートサーチを開始する直前の状態に戻ります。



- スマートメモリーはメモリーチャンネルとは別に31個あり、スマートサーチを開始した周波数よりも高い側／低い側用に各15個ずつ使用されます（1個はスマートサーチを開始した周波数）。
- セットモード『36 S SQH』の設定により、スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返してサーチするように変更できます。
- スマートメモリーに書き込まれた周波数は次の時点で消去されます。
 - ・再度スマートサーチを開始したとき
 - ・電源をオフにしたとき
 - ・電池パックを取り外したとき
 - ・電池パックが取り付けられていないときに外部電源を取り外したとき
- スマートメモリーの周波数は、「メモリーに書き込む（17ページ）」を行うとメモリーチャンネルにメモリーできます。
- 再びスマートサーチを開始するときは、いったんVFOモードまたはメモリーモードに戻ってから行ってください。

■指定した周波数の範囲をスマートサーチする

あらかじめプログラマブルメモリースキャン（PMS）により、下限周波数と上限周波数を登録しておきます（28ページ参照）。

1. メモリーモードにし、下限周波数または上限周波数のプログラマブルメモリーを呼び出します。

2. (BW)を押した後(V/M)を押します。

DIALツマミをまわして、スマートサーチを開始する周波数に選択します。

3. (MD)を押したまま、DIALツマミをまわして『S SRCH』を選択します。

4. (MD)を離すとスマートサーチのモードになり、(BAND)を1秒以上押して離すとサーチを開始します。

指定した周波数内を1回サーチするとスマートサーチは終了します。

ただし、指定した周波数内を1回サーチする前にスマートメモリーが一杯になると、スマートサーチは終了します。

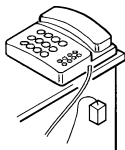
5. DIALツマミをまわして、スマートメモリーを呼び出します。

6. スマートサーチを終了するときは、(MD)を押します。

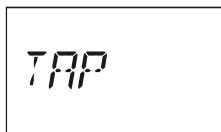
スマートサーチを開始する直前の状態に戻ります。

盗聴器を探し出す(盗聴器発見機能サーチ)

「盗聴器が仕掛けられているかも知れない」と困っている人がいるような場合、手助けをする機能です。盗聴で使用されていると思われる電波を自動的に探し出し、ピープ音の変化(4段階)でおおよその設置場所を発見することができます。



1. **(MD)**を押したまま、DIALツマミをまわして『TAP』を選択します。スペシャルサーチモード (SPC S) になり、盗聴器発見機能サーチ (TAP)を選択することができます。



2. **(MD)**を離すと盗聴器発見機能サーチのモードになり、盗聴周波数を表示しながらサーチします。

盗聴波と思われる電波を発見したとき・・・最大20チャンネルある盗聴器発見機能サーチメモリーに、一番強いV信号から順番に周波数を書き込み、一番強いV信号の周波数を表示してサーチが止まります。

サーチが終了後、DIALツマミを右にまわすと盗聴器発見機能サーチメモリーに書き込まれている周波数を、信号の強かった順に呼び出すことができます。

盗聴波と思われる電波がなかったとき・・・ディスプレイに“---NO---”が表示されVFOモードに戻ります。プライバシーを侵害する盗聴器は無いと思われます。

盗聴器発見機能サーチのメモリー番号



サーチした周波数を表示

各種の便利な機能

- ◎ 盗聴波と思われる電波を探し出すことができれば、次は盗聴器が設置されている場所を探し出します。

3. **(BAND)**を押します。

ディスプレイに表示されている“TAP”が点滅し、アッテネーター (ATT:約10dB) とピープの機能が自動的に“オン”になります。



4. ピープの音が「ピー、ピー、ピー・・・」と高い音で鳴る場所を探し出します。

「プツ、プツ、プツ・・・」と低い音で鳴る場合は、盗聴器が設置されている場所から離れていることを示し、さらに離れると、「プツ、プツ、プツ・・・」と短い音に変わります。

5. 盗聴器に近づくと、ピープのピー音が長く鳴りますので、**(BAND)**を押してアッテネーター (約50dB) を動作させます。

さらにVX-2が盗聴器に近づくと、VX-2のスピーカーがハウリングをおこし、盗聴器が設置されている場所を発見することができます。

6. **(MD)**を押すと盗聴器発見機能は解除され、盗聴器発見機能サーチを終了します。

アッテネーターはオフになり通常の感度に戻ります。

盗聴器発見機能サーチメモリーに書き込まれた周波数は消去され、盗聴器発見機能サーチを開始する直前の状態に戻ります。



この機能は、盗聴器の発見を補助するための機能で、全ての盗聴器を探し出せるわけではありません。また本機能を使用して生じたトラブルについては、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

デュアルレシーブ (DW)機能を使う

希望するメモリーチャンネルを5秒間に1回優先的に受信できます。

1. メモリーモードにします。

2. **[BW]**を1秒以上押します。
書き込みモードになり、ディスプレイに“**B**”とチャンネル番号が点滅します。

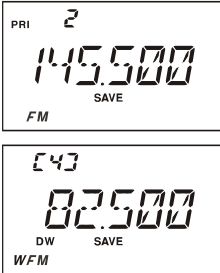
3. 優先的に受信したいメモリーチャンネル（プライオリティメモリーチャンネル）をDIALをまわして選択します。

4. **[BAND]**を押します。
ディスプレイに“**PRI**”が表示されます。

5. 常時受信する周波数を選択します。
VFOモード、メモリーモード、またはホームチャンネルの周波数を選択します。

6. **[V/M]**を1秒以上押します。
デュアルレシーブが始まり、“**DW**”が表示されます。

7. デュアルレシーブを終了するときは**[V/M]**を押します。



各種の便利な機能

- 工場出荷時には、メモリーチャンネル1にプライオリティメモリーチャンネルが設定されています。
- 常時受信する周波数とプライオリティメモリーチャンネルの周波数の周波数帯やモードの組み合わせに制限はありません。たとえば、AMラジオ放送を聞きながらレピーターを定期的に受信することができます。
- プライオリティメモリーチャンネルで信号を受信すると、その周波数を5秒間受信して再びデュアルレシーブが始まります。プライオリティメモリーチャンネルを受信しているときに、**PTTスイッチ**を押すとその周波数で送信することができデュアルレシーブ機能を終了します。
- デュアルレシーブの再開条件は、セットモードの『31 RESUME』で変更することができます。
- “**PRI**”のアイコンは移動することはできません、消去することはできません。

RFスケルチ機能を使う

設定以上の信号を受信した場合のみ、音声を出力させる機能です。

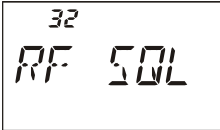
1. **[H/L]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. DIALツマミをまわして『32 RF SQL』を選択します。

3. **[H/L]**を押します。

4. DIALツマミをまわして設定値を選択します(下表参照)。

5. **[H/L]**を1秒以上押します。



表示	動作状態
S 1	Sメーターが“1”以上の信号の音声を出力します。
S 2	Sメーターが“2”以上の信号の音声を出力します。
S 3	Sメーターが“3”以上の信号の音声を出力します。
S 4	Sメーターが“4”以上の信号の音声を出力します。
S 5	Sメーターが“5”以上の信号の音声を出力します。
S 6	Sメーターが“6”以上の信号の音声を出力します。
S 8	Sメーターが“8”以上の信号の音声を出力します。
S 9+	Sメーターが“フルスケール”以外の信号の音声は出力しません。
OFF	RFスケルチ機能が“OFF”になります。

自動的に電源をオフする (APO)

指定した時間何の操作も行わずにいと、電源スイッチの切り忘れと判断して自動的に電源をオフにします (オートパワーオフ機能)。

1. **[H/L]** を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. **DIALツマミ**をまわして『1 APO』を選択します。

3. **[H/L]** を押します。

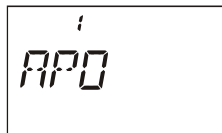
4. **DIALツマミ**をまわして時間を選択します。

OFF/30分/1時間/3時間/5時間/8時間から選択することができます。

5. **[H/L]** を1秒以上押します。

オートパワーオフ機能が設定され、もとの表示に戻ります。

設定した時間何の操作もしないと、自動的に電源がオフになります。



- オートパワーオフ機能がオンのときには“**⓪**”が表示されます。
- 工場出荷時は“OFF”に設定されています。
- 設定した時間は、手順4.の操作で“OFF”を選択するまで、そのまま保持されます (次に電源をオンにしたときも、設定した時間何の操作もしないと、自動的に電源がオフになります)。

連続送信時間を制限する (TOT)

指定した時間連続送信を行なうと、自動的に受信状態に戻るようにすることができます。誤動作による不要電波の送出やバッテリーの消耗を防ぐことができます (タイムアウトタイマー機能)。

1. **[H/L]** を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. **DIALツマミ**をまわして『45 TOT』を選択します。

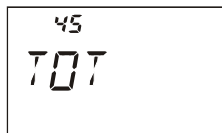
3. **[H/L]** を押します。

4. **DIALツマミ**をまわして時間を選択します。

OFF/1分/3分/5分/10分から選択することができます。

5. **[H/L]** を1秒以上押します。

タイムアウトタイマー機能が設定され、もとの表示に戻ります。



- タイムアウトタイマー機能がオンのときには、設定した時間に近づくと「ピポ、ピポ、ピポ」とピープ音が鳴り、約10秒後に受信状態に戻ります。
- 工場出荷時は“OFF”に設定されています。
- 設定した時間は、手順4.の操作で“OFF”を選択するまで、そのまま保持されます。

受信中に誤って送信しないようにする (BCLO)

信号を受信中に誤って送信しないようにすることができます (ビジーチャンネルロックアウト機能)。

1. **[H/L]** を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

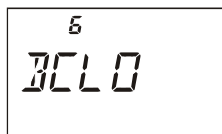
2. **DIALツマミ**をまわして『6 BCLO』を選択します。

3. **[H/L]** を押します。

4. **DIALツマミ**をまわして「ON」を選択します。

5. **[H/L]** を1秒以上押します。

ビジーチャンネルロックアウト機能が設定され、もとの表示に戻ります。



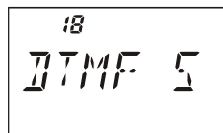
- 工場出荷時は“OFF”に設定されています。
- 設定した機能は、手順4.の操作で“OFF”を選択するまで、そのまま保持されます。

DTMF機能を使う(1)

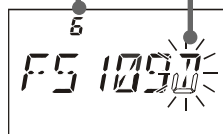
WIREsをアクセスするためのDTMFコードやフーンパッチから公衆回線に接続するときに使う電話番号などを、最大16桁のDTMFコードで登録することができます（9チャンネル分）。

■DTMFコードを登録する

1. **[H/L]** を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIALツマミ**をまわして『18 DTMF S』を選択します。
3. **[H/L]** を押します。
4. **DIALツマミ**をまわして登録したいチャンネルを選択します。
CH1～CH9から選択することができます。
5. **[BAND]** または **[V/M]** を押します。
6. **DIALツマミ**をまわしてDTMFコードを入力します。
7. **[V/M]** を押してカーソルを移動します。
8. 手順6., 7.を繰り返しDTMFコードを入力します（最大16桁）。
9. 最後の桁のDTMFコードにカーソルをあわせ、**[H/L]** を1秒以上押します。
DTMFコードが設定され、もとの表示に戻ります。



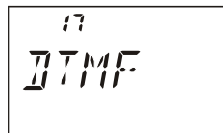
最後の桁がカーソルと共に点滅
桁数を表示



- 手順6.でDTMFコードを修正したいときは、**[BAND]**（左方向へ移動）または**[V/M]**（右方向へ移動）を押して修正したい桁にあわせ、**DIALツマミ**をまわして入力します。
 - 手順6.でDTMFコードを登録中に**[MEM]**を押すと、カーソルの文字とその文字以降を削除することができます。
 - 手順6.でDTMFコードを登録するとき、「*」は“E”，「#」は“F”とディスプレイに表示されます。
 - 入力したDTMFコードをDTMF音で確認することができます。
1. **[H/L]** を1秒以上押してセットモードにします。
 2. **DIALツマミ**をまわして『18 DTMF S』を選択します。
 3. **[H/L]** を押します。
 4. **DIALツマミ**をまわして登録してあるチャンネルを選択します。
 5. **[V/M]**を押すと、登録してあるDTMFコードをDTMF音で確認することができます。
 6. **[H/L]** を1秒以上押してセットモードを終了します。

■登録したDTMFコードを送出する

1. **[H/L]** を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIALツマミ**をまわして『17 DTMF』を選択します。
3. **[H/L]** を押します。
4. **DIALツマミ**をまわして「AUTO」を選択します。
5. **[H/L]** を1秒以上押してセットモードを終了します。
6. PTTスイッチを押したままにします。
7. **[H/L]** を押し、DTMFメモリーのチャンネルを表示させます。
8. **DIALツマミ**をまわして送出したいDTMFメモリーのチャンネル(CH 1～CH 9)を選択します。
CH 1 ⇄ CH 2 ⇄ CH 3 ⇄・・・⇄ CH 9 ⇄ CH 1に戻る
9. **[H/L]** を押します。
登録したDTMFコードが送出されます。また、スピーカーから送出するDTMF音が聞こえます。
10. PTTスイッチを離します。
PTTスイッチを離してもDTMF信号の送出が終了するまでは、送信を続けます。

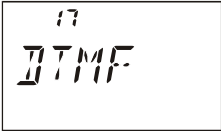


DTMF機能を使う(2)

マニュアルでDTMFコードを送出することもできます。

■マニュアルでDTMFコードを送出する

- 1. **[H/L]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
- 2. **DIAL**ツマミをまわして『17 DTMF』を選択します。



- 3. **[H/L]**を押します。
- 4. **DIAL**ツマミをまわして「MANUAL」を選択します。
- 5. **[H/L]**を1秒以上押してセットモードを終了します。
- 6. **PTT**スイッチを押したままにします。
- 7. **[H/L]**を押し、DTMFコードを表示させます。
- 8. **DIAL**ツマミをまわして、送りたいDTMFコードを選択します。
DTMF 0 ⇄ DTMF 1 ⇄ DTMF 2 ⇄ DTMF 3 ⇄ . . . ⇄ DTMF F ⇄ DTMF 0 に戻る
- 9. **[H/L]**を押します。
選択したDTMFコードが送出されます。また、スピーカから送出するDTMF音が聞こえます。
連続でコードを送出したいときは手順8, 9を繰り返し行ないます。
- 10. **PTT**スイッチを離します。
PTTスイッチを離してもDTMF信号の送出が終了するまでは、送信を続けます。

- DTMFとは“Dual Tone Multi Frequencies”の略語で、プッシュホーンの電話をかけたときに受話器から聞こえる音「ピッポッパ」です。
- DTMFコードは、2つの周波数の組み合わせから成っています。

	1209Hz	1336Hz	1477Hz	1633Hz
697Hz	1	2	3	A
770Hz	4	5	6	B
852Hz	7	8	9	C
941Hz	* (E)	0	# (F)	D

- 「*」は“E”，「#」は“F”とディスプレイに表示されます。

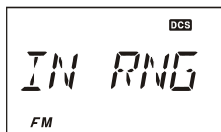
ARTS機能を使う

ARTS機能とは、相手局が交信可能範囲内にいるかどうかを調べることができる機能です。

⑧を1秒以上押します。

相手局が交信可能な範囲にいるときは“IN RING”が表示されます。

⑧を1秒以上押すと、ARTS機能を使う直前の状態に戻ります。



- 相手局が交信範囲の外にいるときは、“OUT RING”が表示されます。
- 相手局と同じDCSコードにセットしてください。ARTS機能に使用するDCSコードは、セットモードの『14 DCS CD』で変更できます。
- DCSコードは工場出荷時の状態で“023”に設定されています。
- ARTS機能をオンにすると、周波数を変更できなくなります。
- ARTS機能は、ARTS機能のあるトランシーバーどうして利用できます。
- ARTS機能がオンの状態でPTTスイッチを押すことにより、相手局と交信できます。
- セットモードの『2 AR BEP』の設定により、相手局からのDCSコードの受信を知らせるビープ音の鳴るタイミングを変更できます。
- セットモードの『3 AR INT』の設定により、チェックの間隔（相手局が交信可能範囲内にいるかどうかを調べる間隔）を変更できます。工場出荷時では、チェック間隔は25秒に設定されています。



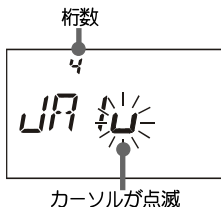
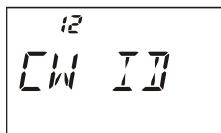
各種の便利な機能

■ARTS使用時に自局のIDを送出する

CW IDを設定すると、ARTS機能がオンのときに自分のコールサインを自動的に、約10分間に1回CWで送出します。

1. **H/L**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミをまわして『12 CW ID』を選択します。
3. **H/L**を押します。
4. **DIAL**ツマミをまわして『ON』を選択します。
5. **BAND**を押します。
6. **DIAL**ツマミをまわしてコールサインを入力します。
7. **V/M**を押してカーソルを移動します。
8. 手順6, 7を繰り返しコールサインを入力します（最大16文字）。
9. **H/L**を1秒以上押します。

CW IDが設定され、もとの表示に戻ります。



- CW IDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2の電波型式の免許が必要です。
- 文字一覧表は、21ページの「メモリータグを使う」を参照してください。
- コールサインを入力中に Ⓜ を押すと、カーソルの文字とその文字以降を削除することができます。
- コールサインを入力後、手順1.～手順3.を行い Ⓜ を押すと、設定したCW IDをCW音で確認することができます。
- CW IDを送出するときには、設定したCW IDの前後に“DE”と“K”が自動的に追加されます（DE “CW ID（コールサイン）” Kと送出されます）。
- CW ID送出時にはDCSコードを含みませんので、当人同士はCW IDを聞くことはできません。

トーンスケルチまたはDCSを使う(1)

トーンスケルチを使うと、こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

また、デジタルコードスケルチ（DCS）を使うと、こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

これらの機能を使うと、長時間にわたって特定の局からの呼び出しを待ち受けているときに、他局の交信にわずらわされることがなくなります。

1. **[W]**を押した後に**[M]**を押します。
2. **DIAL**ツマミをまわしてスケルチの種類を選択します(下表参照)。
3. **[W]**を押した後に**[M]**を押します。
スケルチの種類が設定され、もとの表示に戻ります。

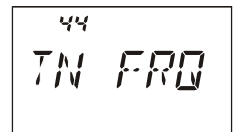
表示	動作状態
OFF	トーン送出、スケルチともにOFFにします。
TONE	トーン送出のみを行います（“ T ”が点灯）。
T SQL	トーンスケルチをONにします（“ T SQ ”が点灯）。
DCS	デジタルコードスケルチをONにします（“ DCS ”が点灯）。
RV TN	リバーストーンをONにします（“ T SQ ”が点滅）。 通話がないときにトーン信号が含まれ、通話を始めるとトーン信号が消えるスケルチ制御方式の通信を受信するときに使用します。

- トーンスケルチやDCSはスキャン時やスマートサーチにも有効です。トーンスケルチまたはDCSがオンの状態でスキャンすると、一致する周波数のトーンまたはDCSコードが含まれている信号を受信したときのみスキャンが停止します。
- **モニタースイッチ**を押すと、トーンまたはDCSコードが含まれていない（または異なる）信号を聞くことができます。
- セットモードの『15 DCS RV』により、位相を反転したDCSコードを受信することができます。
- セットモードの『40 SPLIT』により、送受信で別々のスケルチタイプを設定することができます。
- セットモードの『42 SQL TYP』からも、スケルチタイプを設定することができます。

■トーンの周波数を設定する

トーンの周波数は、67.0Hz～254.1Hzの50種類から選択できます。

1. **[H/L]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミをまわして『44 TN FRQ』を選択します。



3. **[H/L]**を押します。
4. **DIAL**ツマミをまわして希望のトーン周波数を選択します。
5. **[H/L]**を1秒以上押します。
トーン周波数が設定され、もとの表示に戻ります。

- 上記の操作で設定したトーンの周波数は、トーンの送出のみを行う場合にも有効です。
- 工場出荷時の状態では88.5Hzに設定されています。

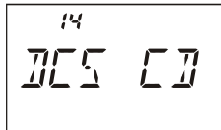
トーンスケルチまたはDCSを使う(2)

■DCSコードを設定する

DCSコードは、023～754の104種類から選択できます。

1. **[H/L]** を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『14 DCS CD』を選択します。
3. **[H/L]** を押します。
4. DIALツマミをまわして希望のDCSコードを選択します。
5. **[H/L]** を1秒以上押します。

DCSコードが設定され、もとの表示に戻ります。



○ 工場出荷時の状態では“023”に設定されています。

■相手局が使用しているトーンスケルチの周波数やDCSコードがわからないとき

下記の操作により、トーンスケルチの周波数やDCSコードを探して表示することができます。

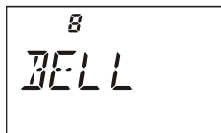
1. **[BW]** を押した後に **[MD]** を押します。
2. DIALツマミをまわしてトーンスケルチ『T SQL』(またはDCSコード『DCSJ』)を選択します。
3. **[BW]** を押した後に **[MD]** を押すとトーンスケルチ(またはDCSコード)が設定されます。
4. 39ページの「トーンの周波数を設定する」(DCSの場合は、上記の「DCSコードを設定する」)の手順1. から手順3. を行ないます。
5. 相手局の信号を受信して **[BAND]** を1秒以上押して離すと(押しているあいだは、『T SRCH』(DCSのときは『D SRCH』)と表示)、トーン周波数(またはDCSコード)をサーチします。
一致したトーン周波数(またはDCSコード)を探し出すと「ピポッ」とピープ音が鳴りサーチを一時停止し、そのトーン周波数(またはDCSコード)を点滅して表示します。

○ スキャンが停止したときの動作を設定することができます。27ページの“スキャンストップ時の受信方法を設定する”を参照してください。

ベル機能を使う

相手局からの呼び出しをベル音と“”の点滅で知らせることができます。



1. **[H/L]** を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『8 BELL』を選択します。
3. **[H/L]** を押します。
4. DIALツマミをまわしてベル音の鳴る回数を選択します。
OFF, 1回, 3回, 5回, 8回, CONT(連続)を選択することができます。
5. **[H/L]** を1秒以上押します。
ベル音の鳴る回数が設定され、もとの表示に戻ります。



● ベル機能を使用するためには、トーンスケルチまたはDCSをオンにしてください。

● ベル機能はレピータでは使用できません。

○ 手順4. で“OFF”以外を選択するとベル機能がオンになります。

○ ベル機能がオンのときには“”が表示されます。また、相手局からの信号を受信したときには“”が点滅します。

緊急を知らせる(エマージェンシー機能)

ホホワイト色のストロボ発光とビーブ音で緊急を知らせることができます。

Ⓜ(H/RV)を1秒以上押します(EMG)。

BUSY/TXインジケーターがホホワイト色にストロボ発光し、ビーブ音が鳴ります。

周波数は430MHz帯のホームチャンネルが自動的に選択されます。

このときにPTTスイッチを押すとエマージェンシー機能が一旦停止し、ホームチャンネルで送信することができます。送信が終了すると再びエマージェンシー機能が動作します。

エマージェンシー機能を解除するときは、もう一度Ⓜ(H/RV)を1秒以上押します。

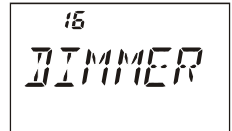
430MHz帯のホームチャンネルに戻ります。

- セットモードの『20 EMG SJ』により、エマージェンシー機能動作時の、ストロボ発光とビーブ音の動作を変更することができます。ビーブを鳴らしながら、BUSY/TXインジケーターがホホワイト色にストロボ発光する以外に、下記の動作に変更することができます。
 - ・ビーブ音のみ鳴らします(BEEP)。
 - ・BUSY/TXインジケーターがホホワイト色でストロボ発光します(STROBE)。
 - ・ビーブ音を鳴らしながらBUSY/TXインジケーターがホホワイト色でストロボ発光します(BP+STR)。
 - ・BUSY/TXインジケーターがホホワイト色で点灯します(BEAM)。
 - ・ビーブ音を鳴らしながらBUSY/TXインジケーターがホホワイト色で点灯します(BP+BEM)。
 - ・BUSY/TXインジケーターとともにモルス符号で「SOS」とホホワイト色で点滅します(CW)。
 - ・ビーブ音がモルス符号で「SOS」と鳴り、さらに音に合わせてBUSY/TXインジケーターがホホワイト色で点滅します(BP+CW)。
- セットモードの『20 EMG SJ』により、SOSの点滅/ビーブ音を他のメッセージに変更することができます(「メッセージ内容の変更方法」：48ページ参照)。

ディスプレイとキーの照明輝度を調節する

ディスプレイのバックライトとキーの照明輝度を、周囲の状況に応じて変更することができます。

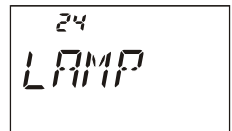
1. Ⓜ(H/L)を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『16 DIMMER』を選択します。
3. Ⓜ(H/L)を押します。
4. DIALツマミをまわして照明の輝度を調節します。
12段階(LVL 0~LVL 12)の輝度を調節することができます。
5. Ⓜ(H/L)を1秒以上押します。
セットモードを終了します。



照明が自動的に点灯しないようにする

キーやDIALツマミを操作すると自動的にディスプレイとキーの照明が5秒間だけ点灯します。この機能を連続で点灯したり、オフにすることができます。

1. Ⓜ(H/L)を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『24 LAMP』を選択します。
3. Ⓜ(H/L)を押します。
4. DIALツマミをまわして希望の点灯方法を選択します。
KEY(5秒間点灯)/CONT(連続点灯)/OFFを選択できます。
5. Ⓜ(H/L)を1秒以上押します。
セットモードを終了します。



電池の電圧を表示する

電池の電圧を表示します。オプションのシガープラグ付き外部電源アダプター（E-DC-21）を接続しているときは、アダプターの電源電圧を表示します。

1. **[H/L]** を1秒以上押します。

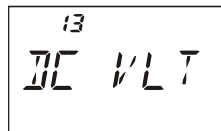
各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. **DIAL**ツマミをまわして『13 DC VLT』を選択します。

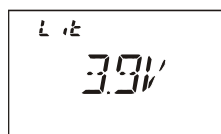
3. **[H/L]** を押します。

ディスプレイに電圧が表示されます。

電圧の表示を消したいときは、**[H/L]** を1秒以上押してセットモードを終了します。



- 電池パックを使用しているときは“**Lt**”，外部電源アダプターを使用しているときは“**E dc**”が表示されます。



受信感度を下げる (ATT)

信号が強すぎるときや、近くに強力な信号があり、目的の信号が聞きにくい場合、アッテネーター (ATT) を動作させると聞きやすくなることがあります。

1. **[H/L]** を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. **DIAL**ツマミをまわして『5 ATT』を選択します。

3. **[H/L]** を押します。

4. **DIAL**ツマミをまわして「ON」を選択します。

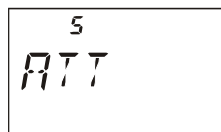
ONまたはOFFを選択できます。

5. **[H/L]** を1秒以上押します。

セットモードを終了します。

ディスプレイのモード表示が点滅します。

アッテネーターをオフにしたいときは、上記の操作を繰り返し、手順 4. の項目で「OFF」を選択します。



- アッテネーター (ATT) の減衰量は約10dBです。

操作音がならないようにする

キー操作等に発する、操作確認音（ビープ音）をオフにすることができます。

1. **[H/L]** を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. **DIAL**ツマミをまわして『7 BEEP』を選択します。

3. **[H/L]** を押します。

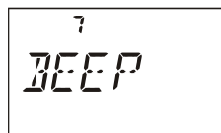
4. **DIAL**ツマミをまわして「OFF」を選択します。

ONまたはOFFを選択できます。

5. **[H/L]** を1秒以上押します。

セットモードを終了します。

ビープ音をオンにしたいときは、上記の操作を繰り返し、手順 4. の項目で「ON」を選択します。



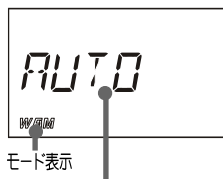
マニュアルでモードを切り替える

自動的にバンド（周波数帯）に適したモードに切り替わる“AUTO（オートモード）”に設定されていますが、マニュアルでモード（電波型式）を切り替えることができます。

ⓂDを押すたびにモードが切り替わります。

表示	動作状態
AUTO	自動的に周波数帯に適したモードに切り替えます。
FM	現在選択しているバンドのみ、FM（ステレオFM）モードに切り替えます。
WFM	現在選択しているバンドのみ、WFM（ワイドFM）モードに切り替えます。
AM	現在選択しているバンドのみ、AMモードに切り替えます。

通常は、AUTOに設定しておくことをおすすめします。



一瞬“AUTO”が点灯しモードが表示する

- セットモードの『34 RX MD』により、モードを切り替えることもできます。
- 144MHz帯、430MHz帯のアマチュアバンドでWFMやAMのモードに選択してあっても、FMモードで送信されます。

マニュアルでステップを切り替える

自動的に受信周波数に応じた最適なステップに切り替わる“AUTO（オートステップ）”に設定されていますが、マニュアルで周波数ステップを切り替えることができます。

1. ⓂWを押した後にⓂH/Lを押します (STEP)。
現在、設定されているステップが表示されます。
2. DIALツマミをまわして希望のステップを選択します。
AUTO/5/(9)/10/12.5/15/20/25/50/100kHzのステップから選択できます。
通常は、AUTOに設定しておくことをおすすめします。
3. ⓂWを押した後にⓂH/Lを押すとステップが設定され、もとの状態に戻ります。

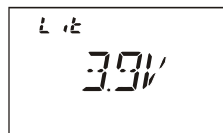


- 0.5～1.8MHzは“9kHz”または“10kHz”のみ選択できます。また“9kHz”ステップは0.5～1.8MHzのみ選択できます。
- 250MHz～300MHzと580MHz以上の周波数は、5kHzステップと15kHzステップの設定をすることができません。
- セットモードの『43 STEP』により、ステップを切り替えることもできます。

インターネットキーの動作をマイキーに変更する

インターネットキーをショートカットキー（マイキー）として変更することができます。マイキーに変更すると、よく使うセットモードをショートカットキーとして使用することができます。

1. ⓂⓈを押しながらⓂⓈを押して電源をオンにします（インターネットキーがマイキーに変更されます）。
2. ⓂⓈを押します。
工場出荷時には、セットモードの『13 DC VLT』が呼び出され、電源電圧を表示します。



インターネットキーの動作に戻す場合は、ⓂⓈを押しながらⓂⓈを押して電源をオンにします。

マイキーの登録を変更する

マイキーで呼び出せるセットモードを変更することができます。

1. あらかじめ、ⓂⓈを押しながらⓂⓈを押して電源をオンにし、マイキーに変更します。
2. ⓂH/Lを1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
3. DIALツマミをまわしてマイキーで呼び出したいセットモードを選択します。
4. ⓂⓈを1秒以上押します。
5. ⓂH/Lを1秒以上押します（マイキーに希望のセットモードが登録されます）。

セットモード番号順一覧表

セットモード (SET) とは、一度設定してしまえばその後変更する機会の少ない機能や動作などの設定を行なう状態をいい、48種類の設定を行なうことができます。

動作説明	セットモード番号/項目	初期値	ページ
APO動作時間の設定	1 APO	OFF	46
ARTS着信時のビーブ音設定	2 AR BEP	IN RNG	46
ARTS動作時のチェック間隔の設定	3 AR INT	25SEC	46
ARS機能のON/OFF	4 ARS	ON	46
アッテネーターのON/OFF	5 ATT	OFF	46
ビジーチャンネルロックアウトの選択	6 BCL O	OFF	46
キー操作時のビーブ	7 BEEP	ON	46
ベル呼び出し音の設定	8 BELL	OFF	47
BUSY LEDのON/OFF	9 BSYLED	ON	47
チャンネルカウンターのサーチ幅の設定	10 CH CNT	±5 MHz	47
クロックシフト(内部ビートキャンセル)の設定	11 CK SFT	OFF	47
CW ID送出の ON/OFFおよびID書き込みの設定	12 CW ID	OFF	47
電源電圧表示	13 DC VLT	—	47
DCSコードの設定	14 DCS CD	023	47
DCS反転コード受信の許可/禁止	15 DCS RV	DISABL	47
バックライト、キーパッド照明の輝度調整	16 DIMMER	LVL 12	47
DTMFメモリーの送出設定	17 DTMF	MANUAL	47
DTMFオートダイアラーのチャンネル、コード (16桁) の設定	18 DTMF S	CH1	47
バンドエッジ、またはCH1通過時の確認音	19 EDG BP	OFF	48
エマーゼンシーモードの設定	20 EMG S	BP+STR	48
送信変調レベルの設定	21 HLFDEV	OFF	48
ホームチャンネル(H-M)キー/リバース(RV)キー変更設定	22 HM/RV	HOME	48
インターネットモードの選択	23 INT MD	WRES	48
ディスプレイ、キーパッド照明モードの設定	24 LAMP	KEY	48
ロックモードの設定	25 LOCK	KEY	48
モニタースイッチ/T-CALLスイッチ変更設定	26 M/T-CL	MONI	48
メモリー書き込み時のオートインクリメント設定	27 MW MD	NEXT	49
メモリーチャンネルの周波数/タグ表示切り替え	28 NAME	FREQ	49
メモリータグの書き込み	29 NM.SET	—	49
オープニングメッセージの設定	30 OPNMSG	DC	49
スキャンストップモードの設定	31 RESUME	5 SEC	49
RFスケルチのレベル設定	32 RF SQL	OFF	49
レピータシフト方向の設定	33 RPT	-RPT (430MHz帯)	50
受信モードの切り替え	34 RX MD	AUTO	50
受信セーブ時間の設定	35 RXSAVE	200MS (1:1)	50
スマートサーチの動作切り替え	36 S SCH	SINGLE	50
スキャンストップ時のランプ点灯	37 SCN LMP	ON	50
レピータシフト幅の設定	38 SHIFT	5MHz (430MHz帯)	50
スキップメモリー/特定メモリーの設定	39 SKIP	OFF	50
送受信で別々のスケルチタイプの設定	40 SPLIT	OFF	50
FM/AM/WIDE FMのスケルチレベル設定	41 SQL	1(WIDE FM2)	50
スケルチタイプの設定	42 SQL TYP	OFF	51
チャンネルステップの設定	43 STEP	AUTO	51
トーン周波数の設定	44 TN FRQ	88.5Hz	51
タイムアウトタイマーの設定	45 TOT	OFF	51
送信セーブ設定	46 TXSAVE	OFF	51
VFOモード時の周波数選択範囲の設定	47 VFO MD	ALL	51
鉄道無線空線スケルチ機能のON/OFF	48 TR SQL	OFF	51

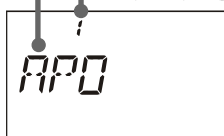
セットモード項目別一覧表

SQL/トーンスケルチ/DCS/DTMFに関する設定項目	セットモード番号/表示	選択できる項目
ベル呼び出し音の設定	8 BELL	OFF/1/3/5/8/CONT(連続)
DCSコードの設定	14 DCS CD	023~754(104種類)
DCS反転コード受信の許可/禁止	15 DCS RV	DISABL(禁止)/ENABLE(許可)
DTMFメモリの送出設定	17 DTMF	MANUAL/AUTO
DTMFオートダイヤラーのチャンネル、コード（16桁）の設定	18 DTMF S	CH1~CH9
RFスケルチのレベル設定	32 RF SQL	OFF/S 1~S 9+
送受信で別々のスケルチタイプの設定	40 SPLIT	OFF/ON
FM/AM/WIDE FMのスケルチレベル設定	41 SQL	FM/AM; LVL 0:LVL1~LVL 15 WIDE FM; LVL 0~LVL2~LVL 8
スケルチタイプの設定	42 SQL TYP	OFF/TONE/TSQ/DCS/RV TN
トーン周波数の設定	44 TN FRQ	67~88.5~254.1Hz(50トーン)
鉄道無線空線スケルチ機能のON/OFF	48 TR SQL	OFF/JR/PR FRQ
インターネットモード/レピーターに関する設定項目	セットモード番号/表示	選択できる項目
ARS機能のON/OFF	4 ARS	ON/OFF
インターネットモードの選択	23 INT MD	WIFES/LINK
レピータシフト方向の設定	33 RPT	SIMP/+RPPT/-RPPT (430MHz帯)
レピータシフト幅の設定	38 S-HIFT	0~5MHz (430MHz帯)~99.95MHz
メモリーに関する設定項目	セットモード番号/表示	選択できる項目
メモリー書き込み時のオートインクリメント設定	27 MW MD	NEXT/LOWER
メモリーチャンネルの周波数/タグ表示切り替え	28 NAME	FREQ/ALPHA
メモリータグの書き込み	29 NM SET	— (最大6桁)
スキップメモリー/特定メモリーの設定	39 SKIP	OFF/SKIP/ONLY
スキャンに関する設定項目	セットモード番号/表示	選択できる項目
チャンネルカウンターのサーチ幅の設定	10 CH CNT	±5 MHz/±10 MHz/±50 MHz/±100 MHz
スキャンストップモードの設定	31 RESUME	3SEC/5SEC/10SEC/BUSY/HOLD
スマートサーチの動作切り替え	36 S SCH	SINGLE/CONT(連続)
スキャンストップ時のランプ点灯	37 SCN LMP	ON/OFF
SAVEに関する設定項目	セットモード番号/表示	選択できる項目
APO動作時間の設定	1 APO	OFF/30MIN/1HOUR/3HOUR/5HOUR/8HOUR
受信セーブ時間の設定	35 RXSAVE	200MS/300MS/500MS/1 S/2 S/OFF
タイムアウトタイマーの設定	45 TOT	OFF/1MIN/3MIN/5MIN/10MIN
送信セーブ設定	46 TXSAVE	OFF/ON
ARTSに関する設定項目	セットモード番号/表示	選択できる項目
ARTS着信時のビーブ音設定	2 AR BEP	IN RANG/ALWAYS/OFF
ARTS動作時のチェック間隔の設定	3 AR INT	25SEC/15SEC
CW ID送出の ON/OFFおよびID書き込みの設定	12 CW ID	OFF/ON
照明に関する設定項目	セットモード番号/表示	選択できる項目
BUSY LEDのON/OFF	9 BSyled	ON/OFF
バックライト、キーパッド照明の輝度調整	16 DIMMER	LVL 0~LVL 12
ディスプレイ、キーパッド照明モードの設定	24 LAMP	KEY/CONT(連続)/OFF
キー/スイッチに関する設定項目	セットモード番号/表示	選択できる項目
キー操作時のビーブ	7 BEEP	ON/OFF
ホームチャンネル(HM)キー/リバース(RV)キー変更設定	22 HM/RV	HOME/REV
ロックモードの設定	25 LOCK	KEY/DIAL/KEY+DIAL/PTT/KEY+PTT/DIAL+PTT/ALL
モニタースイッチ/T-CALLスイッチ変更設定	26 M/T-CL	MONI/T-CALL
受信に関する設定項目	セットモード番号/表示	選択できる項目
アッテネーターのON/OFF	5 ATT	OFF/ON
バンドエッジ、またはCH1通過時の確認音	19 EDG BP	OFF/ON
受信モードの切り替え	34 RX MD	AUTO/NFM/AM/WFM
チャンネルステップの設定	43 STEP	AUTO/5/(9)/10/12.5/15/20/25/50/100kHz
VFOモード時の周波数選択範囲の設定	47 VFO MD	ALL/BAND
その他の設定項目	セットモード番号/表示	選択できる項目
ビジーチャンネルロックアウトの選択	6 BCLO	OFF/ON
クロックシフト(内部ビートキャンセル)の設定	11 CK SFT	OFF/ON
電源電圧表示	13 DC VLT	—
エマージェンシーモードの設定	20 EMG S	BEEP/STROBE/BP+STR/BEAM/BP+BBW/CW/BP+CW
送信変調レベルの設定	21 HLFDEV	OFF/ON
オープニングメッセージの設定	30 OPNMSG	DC/MSG/OFF

セットモードの動作一覧表 (1)

1. **[H/L]** を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL** ツマミをまわして設定したいセットモードを選択します。
3. **[H/L]** を押します。

セットモードの項目
セットモード番号



4. **DIAL** ツマミをまわして設定する項目を選択します。
5. **[H/L]** を1秒以上押してセットモードを終了します。



設定項目

セットモードリセット

すべてのセットモードの設定値を、一度に工場出荷時の値に戻すことができます。

1. **[BAND]** **[V/M]** の2つのキーを押しながら **[ON]** を押して電源をオンにします。
「ピッポッパッ」とビーブ音が鳴ると同時に、キーから指を放してください。
2. “SET MODE RESET PUSH F KEY” が表示されたら、**[B/W]** を押します。
「ピッポッパッ」とビーブ音が鳴ります。
[B/W] 以外のキーを押せば、リセットを中止することができます。

必要に応じて使う機能

1 APO

APO動作時間の設定

設定項目：OFF/30MIN/1HOUR/3HOUR
/5HOUR/8HOUR

工場出荷時：OFF

解説：APO（一定時間操作しないと自動的に電源をOFFにする）時間を設定します。APO時間が設定されているときには“**[ON]**”が表示されます。

2 AR BEP

ARTS着信時のビーブ音設定

設定項目：IN RANG/ALWAYS/OFF

工場出荷時：IN RANG

解説：

IN RANG：初めて交信可能範囲内にいることが確認されたときだけ「ビピッ」とビーブ音を鳴らし、初めて交信可能範囲外になったときだけ「ビビピッ」とビーブ音を鳴らします。

ALWAYS：交信可能範囲内にいるときはいつも「ビピッ」とビーブ音を鳴らし、初めて交信可能範囲外になったときだけ「ビビピッ」とビーブ音を鳴らします。

OFF：ARTSのビーブ音をOFFにします。

3 AR INT

ARTS動作時のチェック間隔の設定

設定項目：25SEC/15SEC

工場出荷時：25SEC

解説：ARTS動作時のチェック間隔を設定します。

4 ARS

ARS機能のON/OFF

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：ON

解説：ARS（レピータの周波数に合わせるだけで自動的にレピータを使える状態になる）機能の動作をON/OFFすることができます。

5 ATT

アッテネーターのON / OFF

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：OFF

解説：アッテネーター（減衰量：10dB）をON / OFF します。

6 BCL0

ビジーチャンネルロックアウトの選択

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：ビジーチャンネルロックアウト（BCL0：すでに使われている周波数での送信禁止）をON/OFFすることができます。

7 BEEP

キー操作時のビーブ

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：ON

解説：キー操作時等のビーブ音をON/OFFすることができます。

セットモードの動作一覧表 (2)

8 BELL

ベル呼び出し音の設定

設定項目：OFF/1/3/5/8/CONT(連続)

工場出荷時：OFF

解説：ベル機能の呼び出し音を設定します。

ベル機能が“OFF”に表示されているときには“♥”が表示されます。

9 BSYLED

BUSY LEDのON/OFF

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：ON

解説：受信時に点灯するBUSYインジケーター (BUSY LED) をOFF にすることができます。

10 CH CNT

チャンネルカウンターのサーチ幅の設定

設定項目：±5MHz / ±10MHz / ±50MHz /
±100MHz

工場出荷時：±5MHz

解説：チャンネルカウンターのサーチ幅を選択します。

11 CK SFT

クロックシフトの設定

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：OFF

解説：

マイコンのクロックを高調波による内部スプリアスとして受信された時は“ON”にします。

通常は“OFF”で使用してください。

12 CW ID

CW ID送しのON/OFFおよびID書き込みの設定

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：OFF

解説：ARTS機能を使用しているときに動作する、CWによるID送しを設定します。

CW IDの設定方法は38ページの“ARTS使用時に自局のIDを送出する”を参照してください。

CWでIDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2の電波型式の免許が必要です。

13 DC VLT

電源電圧表示

解説：ディスプレイに電源電圧を表示します。

14 DCS CD

DCSコードの設定

設定項目：023~754 (104種類)

工場出荷時：023

解説：104種類のコードから選択することができます。

選択できるDCSコード										
023	054	125	165	245	274	356	445	506	627	732
025	065	131	172	246	306	364	446	516	631	734
026	071	132	174	251	311	365	452	523	632	743
031	072	134	205	252	315	371	454	526	654	754
032	073	143	212	255	325	411	455	532	662	—
036	074	145	223	261	331	412	462	546	664	—
043	114	152	225	263	332	413	464	565	703	—
047	115	155	226	265	343	423	465	606	712	—
051	116	156	243	266	346	431	466	612	723	—
053	122	162	244	271	351	432	503	624	731	—

15 DCS RV

DCS反転コード受信の許可/禁止

設定項目：DISABL(禁止)/ENABLE(許可)

工場出荷時：DISABL

解説：ENABLEを選択すると、位相の反転したDCSコードを受信することができます。

16 DIMMER

バックライト、キー照明の輝度調整

設定項目：LVL 0~LVL 12

工場出荷時：LVL 12

解説：ディスプレイのバックライトとキーパッド照明の輝度を調節します。

17 DTMF

DTMFメモリーの送出設定

設定項目：MANUAL/AUTO

工場出荷時：MANUAL

解説：

MANUAL；マニュアルでDTMFを送出します。送出方法は37ページを参照してください。

AUTO；セットモードの『18 DTMF S』により、DTMFメモリー (9チャンネル) に登録しておき、オートでDTMFを送出します。送出方法は36ページを参照してください。

18 DTMF S

DTMFオートダイアラーのチャンネル、コード(16桁)の設定

工場出荷時：CH1

解説：DTMFコード* (16桁以内) をDTMFメモリーCH1~CH9に登録します。

登録方法は36ページを参照してください。

セットモードの動作一覧表 (3)

19 EDG BP

バンドエッジまたはCH1通過時の確認音

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：DIALツマミでの周波数選択時およびメモリースキャン時に、バンドエッジやメモリーチャンネル1を通過したときのピープ音をON/OFFすることができます。

20 EMG S

エマージェンシーモードの設定

設定項目：BEEP/STROBE/BP+STR/BEAM
/BP+BEM/CW/BP+CW

工場出荷時：BP+STR

解説：エマージェンシー機能動作時の、ピープ音とストロボ動作の設定を替えることができます。

また、“CW（またはBP+CW）”を選択するとSOSと点滅しますが、CWのメッセージ内容を変更することができます。メッセージ内容の変更方法は下記を参照してください。

BEEP； ピープ音のみ鳴らします。

STROBE； BUSY/TXインジケータがホワイト色でストロボ発光します。

BP+STR； ピープを鳴らしながら、BUSY/TXインジケータがホワイト色でストロボ発光します。

BEAM； BUSY/TXインジケータがホワイト色で点灯します。

BP+BEM； ピープを鳴らしながら、BUSY/TXインジケータがホワイト色で点灯します。

CW； BUSY/TXインジケータがホワイト色で「SOS」と点滅します。

BP+CW； ピープ音が「SOS」と鳴り、さらに音に合わせてBUSY/TXインジケータがホワイト色で点滅します。

CWメッセージ内容の変更方法

1. セットモードの『20 EMG S』を選択します。
 2. **[H/L]**を押します。
 3. **DIAL**ツマミをまわして「CW」または「BP+CW」を選択します。
 4. **[V/M]**を押します。
 5. **DIAL**ツマミをまわしてメッセージの文字を選択します。
 6. **[V/M]**を押してカーソルを移動します。
 7. 手順5.6を繰り返しメッセージを入力します（最大16文字）。
 8. **[H/L]**を1秒以上押します。
メッセージ内容がメモリーされ、もとの表示に戻ります。
- 文字一覧表は、21ページの「メモリータグを使う」を参照してください。

21 HLFDE V

送信変調レベルの設定

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：送信変調度が通常の約半分になります。通常は“OFF”のままで使用してください。

22 HM/RV

ホームチャンネル(HM)キー/リバース(RV)キー変更設定

設定項目：HOME/REV

工場出荷時：HOME

解説：

HOME； ホームチャンネルの呼び出しとして動作します。

REV； リバース設定として動作します。

23 INT MD

インターネットモードの選択

設定項目：WIRES / LINK

工場出荷時：WIRES

解説：インターネットモードの方式を切り替えることができます。

WIRES； WIRES方式を使用するときに選択します。

LINK； WIRES以外の方式を使用するときに選択します。

24 LAMP

ディスプレイ、キーパッド照明モードの設定

設定項目：KEY/CONT(連続)/OFF

工場出荷時：KEY

解説：照明の点灯方法を設定します。

KEY； キー操作をすると自動的に点灯し、キー操作を終了すると5秒後に自動的に消灯します。

CONT； 連続点灯します。

OFF； 照明の点灯をOFFにすることができます。

25 LOCK

ロックモードの設定

設定項目：KEY/DIAL/KEY+DIAL/PTT
/KEY+PTT/DIAL+PTT/ALL

工場出荷時：KEY

解説：ロックする対象を設定します。

26 M/T-CL

モニタースイッチ/T-CALLスイッチ変更設定

設定項目：MONI/T-CALL

工場出荷時：MONI

解説：

MONI； モニターとして動作します。

T-CALL； トーンコールとして動作します。

セットモードの動作一覧表 (4)

27 MW MD

メモリー書き込み時のオートインクリメント設定

設定項目：NEXT/ LOWER

工場出荷時：NEXT

解説：

NEXT； 以前書き込んだメモリー番号の次の番号を表示します。メモリーチャンネルを最小チャンネルから順番にメモリーしてないときや、メモリーバンクを利用してメモリーしてある場合に便利です。

LOWER； メモリーを最小チャンネルから順番に書き込んだとき、未書き込みの最小チャンネルを表示します。

28 NAME

メモリーチャンネルの周波数/タグ表示切り替え

設定項目：FREQ/ALPHA

工場出荷時：FREQ

解説：

FREQ； メモリーチャンネルの周波数を表示します。

ALPHA； メモリーチャンネルにつけた名前を表示します。

29 NM SET

メモリータグの書き込み

解説：メモリーチャンネルに最大6桁の名前（メモリータグ）をつけることができます。名前のつけかたは、20ページを参照してください。

30 OPNMSG

オープニングメッセージの設定

設定項目：DC/MSG/OFF

工場出荷時：DC

解説：電源を入れたときに約5秒間ディスプレイに電源電圧やメッセージを表示します。

DC； 電源電圧を表示します。

MSG； 6桁のメッセージを表示することができます。メッセージの登録は下記の方法で行なってください。

OFF； 電源電圧またはメッセージの表示をOFFにします。

メッセージの登録方法

1. セットモードの『30 OPNMSG』を選択します。
2. **[H/L]**を押します。
3. **DIALツマミ**をまわして「MSG」を選択します。
4. **[V/M]**を押します。
5. **DIALツマミ**をまわしてメッセージの文字を選択します。
6. **[V/M]**を押してカーソルを移動します。

7. 手順5., 6.を繰り返しメッセージを入力します（最大6文字）。

8. **[H/L]**を1秒以上押します。

メッセージ内容が登録され、もとの表示に戻ります。

○ 文字一覧表は、21ページの「メモリータグを使う」を参照してください。

31 RESUME

スキャンストップモードの設定

設定項目：3SEC/5SEC/10SEC/BUSY/HOLD

工場出荷時：5SEC

解説：

3SEC； 3秒受信した後、スキャンを再開します。

5SEC； 5秒受信した後、スキャンを再開します。

10SEC； 10秒受信した後、スキャンを再開します。

BUSY； 信号がなくなるまで受信し、信号がなくなるとスキャンを再開します。

HOLD； スキャンを中止して、その周波数を受信し続けます。

32 RF SQL

RFスケルチのレベル設定

設定項目：OFF/S 1～S 9+

工場出荷時：OFF

解説：設定値以上の信号を受信した場合のみ、音声を出力することができます。

S 1； Sメーターが“1”以上の信号の音声を出力します。

S 2； Sメーターが“2”以上の信号の音声を出力します。

S 3； Sメーターが“3”以上の信号の音声を出力します。

S 4； Sメーターが“4”以上の信号の音声を出力します。

S 5； Sメーターが“5”以上の信号の音声を出力します。

S 6； Sメーターが“6”以上の信号の音声を出力します。

S 8； Sメーターが“8”以上の信号の音声を出力します。

S 9+； Sメーターが“フルスケール”以外の信号の音声は出力しません。

OFF； RFスケルチ機能が“OFF”になります。

セットモードの動作一覧表 (5)

33 RPT

レピータシフト方向の設定

設定項目：SIMP/+RPT/-RPT
工場出荷時：+RPT (439.000~439.980MHz：AFSがON時)
解説：レピータのシフト方向を設定します。
-RPT； マイナス方向
+RPT； プラス方向
SIMP； シフトなし

34 RX MD

受信モードの切り替え

設定項目：AUTO/NFM/AM/W-FM
工場出荷時：AUTO
解説：モード（電波型式）を変更することができます。AUTOに設定しておくくと自動的に周波数帯に適したモードに切り替わります（下記参照）。

周波数帯	モード	周波数帯	モード
0.5~1.8MHz	AM	161.5~162.9MHz	FM
1.8~29MHz	AM	162.9~174MHz	FM
29~30MHz	FM	174~222MHz	WFM
30~35.53MHz	FM	222~250.4MHz	AM
35.53~51MHz	AM	250.4~253MHz	FM
51~54MHz	FM	276~300MHz	FM
54~76MHz	FM	300~336MHz	AM
76~90MHz	WFM	336~420MHz	FM
90~108MHz	WFM	420~430MHz	FM
108~137MHz	AM	430~440MHz	FM
137~142MHz	FM	440~459.5MHz	FM
142~148MHz	FM	459.5~464.8MHz	WFM
148~156MHz	FM	464.8~470MHz	FM
156~157.45MHz	FM	470~770MHz	WFM
157.45~160.6MHz	FM	770~915MHz	FM
160.6~160.975MHz	FM	961~999MHz	WFM
160.975~161.5MHz	FM	—	—

周波数帯は、下限を含み上限を含まず。

35 RXSAVE

受信セーブ時間の設定

設定項目：200MS/300MS/500MS/1 S/2 S/OFF
工場出荷時：200ms
解説：受信セーブがオンのときは、“SAVE”が点滅します（信号受信中は点灯）。
200ms (1:1)； 200ms受信して200msセーブ
300ms (1:1.5)； 200ms受信して300msセーブ
500ms (1:2.5)； 200ms受信して500msセーブ
1S (1:5)； 200ms受信して1Sセーブ
2S (1:10)； 200ms受信して2Sセーブ
OFF； 受信セーブしません（連続受信）。

36 S SCH

スマートサーチの動作切り替え

設定項目：SINGLE/CONT（連続）
工場出荷時：SINGLE
解説：
SINGLE； 1回だけサーチします。
CONT； スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返しサーチします。

37 SCN LMP

スキャンストップ時のランプ点灯

設定項目：ON/OFF
工場出荷時：ON
解説：スキャンストップ時の照明の点灯をON/OFFすることができます。

38 SHIFT

レピータシフト幅の設定

設定項目：0~99.95MHz
工場出荷時：5MHz (430MHz帯)
解説：レピータシフト幅を設定します。430MHz帯以外の周波数帯は0MHzに設定してあります。

39 SKIP

スキップメモリー/特定メモリーの設定

設定項目：OFF/SKIP/ONLY
工場出荷時：OFF
解説：
OFF； スキップメモリーまたは特定メモリーをOFFにします。
SKIP； メモリースキャン時にスキャンする必要のないメモリーチャンネルを指定します。
ONLY； 特定のメモリーチャンネルだけをスキャンしたいときに指定します。

40 SPLIT

送受信で別々のスケルチタイプの設定

設定項目：OFF/ON
工場出荷時：OFF
解説：送信と受信で別々のスケルチタイプを設定することができます。ONに設定すると、セットモードの『42 SQL TYP』にD CODE/T DCS/D TONEの設定項目が追加されます。
D CODE； 送信時のみDCSコードを送出します（“DCS”が点滅）。
T DCS； 送信時にトーン信号を送出し、受信時にDCSコードで待ち受けをします（“T”が点滅“DCS”が点灯）。
D TONE； 送信時にDCSコードを送出し、受信時にトーン信号で待ち受けをします（“T SQ”が点灯，“DCS”が点滅）。

41 SQL

FM/AM/WIDE FMのスケルチレベル設定

設定項目：FM/AM； LVL 0~LVL 15
WIDE FM； LVL 0~LVL 8
工場出荷時：FM/AM； LVL 1
WIDE FM； LVL 2
解説：受信しているモードのスケルチレベルを設定します。数字が大きくなるほどスケルチが深くなります。

セットモードの動作一覧表 (6)

42 SQLTYP

スケルチタイプの設定

設定項目：OFF/TONE/T SQL/DCS/RV TN

工場出荷時：OFF

解説：

OFF； トーン送出，スケルチともにOFFにします。

TONE； トーン送出のみを行います（**「T」**が点灯）。

T SQL； トーンスケルチをONにします（**「T SQ」**が点灯）。こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

DCS； デジタルコードスケルチをONにします（**「DCS」**が点灯）。こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

RV TN； リバーストーン動作をONにします（**「T SQ」**が点滅）。通話が終わるときにトーン信号が含まれ，通話を始めるとトーン信号が消えるスケルチ制御方式の通話を受信するときに使用します。

43 STEP

チャンネルステップの設定

設定項目：AUTO/5/(9)/10/12.5/15/20/25/50/100kHz

工場出荷時：AUTO

解説：ステップ幅（DIALツマミで周波数選択時に1クリックで変化する周波数とVFOスキャン時の周波数変化量）を設定します。工場出荷時の状態では周波数帯ごとに最適値が設定されていますので，通常はそのままでお使いいただけます。

0.5～1.8MHzは“9kHz”または“10kHz”のみ選択できます。また“9kHz”ステップは0.5～1.8MHzのみ選択できます。

250MHz～300MHzと580MHz以上の周波数は，5kHzステップと15kHzステップの設定をすることができません。なお，工場出荷時の各周波数帯によるAUTOで設定されているステップ幅は，下表のようになります。

周波数帯	ステップ幅	周波数帯	ステップ幅
0.5～1.8MHz	9kHz	161.5～162.9MHz	25kHz
1.8～29MHz	5kHz	162.9～174MHz	10kHz
29～30MHz	10kHz	174～222MHz	50kHz
30～35.53MHz	10kHz	222～250.4MHz	100kHz
35.53～51MHz	5kHz	250.4～253MHz	12.5kHz
51～54MHz	20kHz	276～300MHz	12.5kHz
54～76MHz	5kHz	300～336MHz	100kHz
76～90MHz	100kHz	336～420MHz	12.5kHz
90～108MHz	50kHz	420～430MHz	12.5kHz
108～137MHz	25kHz	430～440MHz	20kHz
137～142MHz	10kHz	440～459.5MHz	12.5kHz
142～148MHz	20kHz	459.5～464.8MHz	25kHz
148～156MHz	10kHz	464.8～470MHz	12.5kHz
156～157.45MHz	25kHz	470～770MHz	50kHz
157.45～160.6MHz	10kHz	770～915MHz	12.5kHz
160.6～160.975MHz	25kHz	961～999MHz	100kHz
160.975～161.5MHz	5kHz	—	—

周波数帯は，下限を含み上限を含まず。

44TN FRQ

トーン周波数の設定

設定項目：67～254.1Hz（50トーン）

工場出荷時：88.5Hz

解説：50トーンのトーン周波数から選択することができます。

選択できるトーン周波数 (Hz)											
67.0	82.5	100.0	123.0	151.4	171.3	189.9	210.7	250.3			
69.3	85.4	103.5	127.3	156.7	173.8	192.8	218.1	254.1			
71.9	88.5	107.2	131.8	159.8	177.3	196.6	225.7	-			
74.4	91.5	110.9	136.5	162.2	179.9	199.5	229.1	-			
77.0	94.8	114.8	141.3	165.5	183.5	203.5	233.6	-			
79.7	97.4	118.8	146.2	167.9	186.2	206.5	241.8	-			

45 TOT

タイムアウトタイマーの設定

設定項目：OFF/1MIN/3MIN/5MIN/10MIN

工場出荷時：OFF

解説：タイムアウトタイマー（TOT：連続送信時間の制限）の時間を設定します。

46 TXSAVE

送信セーブ設定

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：送信セーブ機能をONにすると，相手局の信号強度がフルスケールの場合，送信出力がハイパワーのときにはLOWに下がります。

47 VFO MD

VFOモード時の周波数選択範囲の設定

設定項目：ALL/BAND

工場出荷時：ALL

解説：VFOモード時の周波数選択範囲を設定します。

ALL； バンドエッジに達すると，次のバンドに切り替わります。

BAND； バンドエッジに達すると，現在のバンドの他端に移ります。

48 TR SQL

鉄道無線空線スケルチ機能のON / OFF

設定項目：OFF/JR/PR FRQ

工場出荷時：OFF

解説：JRとJR以外の空線スケルチを選択することができます。

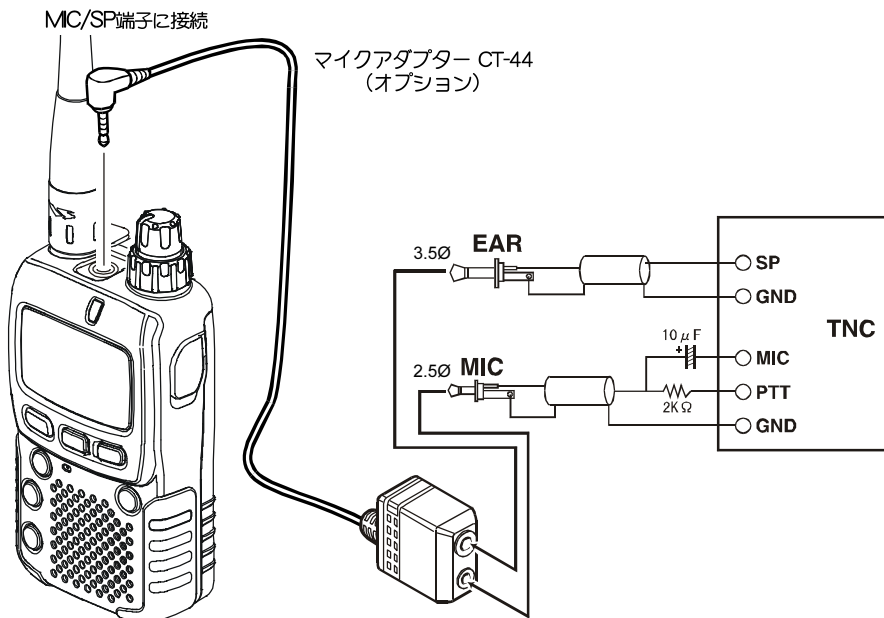
OFF； 空線スケルチ機能をOFFにします。

JR； 2280Hzの空線信号を含んだJR鉄道無線を受信するときはONにします。

PR FRQ； 空線信号の周波数を100Hzステップで300Hz～3000Hzまで設定することができます（工場出荷時：1600Hz）。周波数の設定方法は25ページを参照してください。

パケット通信に使う

オプションのマイクアダプター (CT-44) を使用すると、お手持ちのTNC (ターミナルノードコントローラー) を接続してパケット通信を行うことができます。



接続後、VOLツマミをまわして、VX-2からTNCへの出力レベルを調節してください。

また、TNC側の出力レベル調節用ボリュームでTNCからVX-2への入力レベルを調節してください (VX-2側では入力レベルは調節できません)。

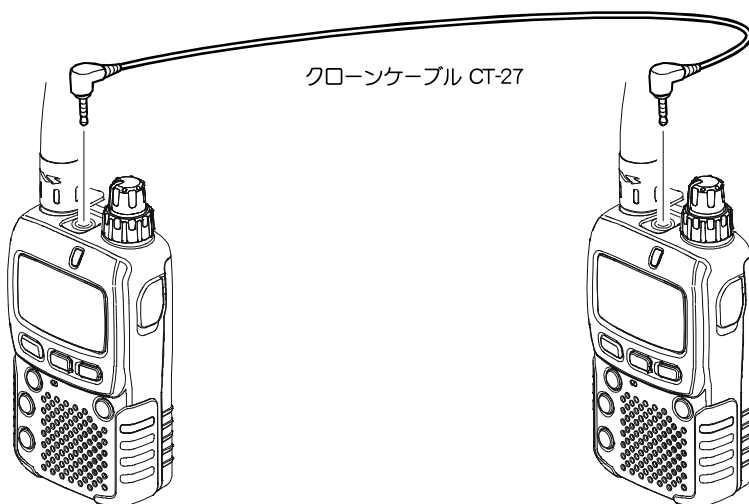
- 大量のデータを転送するときには送信時間が長くなり、本機の発熱が大きくなります。長時間送信続けると、過熱防止回路が作動して送信出力が下がります。さらに送信を続けると、過熱による故障を防ぐために、送信が中止されて受信状態になります。過熱防止回路が作動して受信状態になったときには、電源をオフまたは受信状態のまま、温度が下がるまでお待ちください。
- パケット通信時には受信セーブ機能はオフに設定してください (セットモードの『35 RXSAVE』)。
- パーソナルコンピューターで発生する雑音によって、受信が妨害される場合があります。正常に受信できない場合は、パーソナルコンピューターをVX-2から離し、フォトカプラーやノイズフィルターを介して接続してください。
- TNCとパーソナルコンピューターの接続方法については、ご使用になるTNCの取扱説明書等をご覧ください。

クローン操作

メモリーされているデータや各種の設定などをもう1台のVX-2にコピーできます。

MIC/SP端子に接続

MIC/SP端子に接続



1. 2台のVX-2の電源をオフにし、オプションのクローンケーブルCT-27を使ってMIC/SP端子に接続します。
2. 2台のVX-2を、**[BAND]**を押しながら**[V/M]**を押して電源をオンにします。クローンモードになります。

3. 受け側のVX-2の**[V/M]**を押し、続いて送り側のVX-2の**[BAND]**を押します。

データのコピーが始まると、受け側の表示が“WAIT”から“RX”に替わります。

コピーが終了すると、受け側のVX-2が通常のモードに戻ります（送り側のVX-2は“TX”のままです）。

4. 2台のVX-2の電源をオフにし、クローンケーブルを外します。

- データの転送中に“ERROR”が表示された場合はエラーです。クローンケーブルの接続を確認してもう一度やりなおしてください。

CLONE

TX

(送り側)

WAIT

(受け側)

プリセットされている放送局周波数一覧表 (1)

『スペシャルバンクを呼び出して世界各地の放送、AM/FMラジオ、TV放送を聴く』の項目で放送局を呼び出したときの一覧表です。

1. **(BW)**を押した後に**(X)**を押します。
2. スペシャルバンクの表示になりますので、**(BAND)**を押して「**RADIO**」を選択します。
選択後プリセットされている放送局のリストチャンネルと放送局名を表示します。
3. **DIAL**ツマミをまわしてリストチャンネルを合わせると、各放送局を呼び出すことができます。

リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
1	6.030	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	30	9.925	AM	BELGUM	Radio Vlaanderen International	ベルギー
2	6.160	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	31	11.780	AM	BELGUM	Radio Vlaanderen International	ベルギー
3	9.760	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	32	13.740	AM	BELGUM	Radio Vlaanderen International	ベルギー
4	11.930	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	33	5.955	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
5	5.995	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	34	6.020	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
6	7.235	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	35	9.895	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
7	9.735	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	36	11.655	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
8	11.955	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	37	9.590	AM	DENMRK	Radio Denmark	デンマーク
9	6.195	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	38	9.985	AM	DENMRK	Radio Denmark	デンマーク
10	9.410	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	39	13.800	AM	DENMRK	Radio Denmark	デンマーク
11	12.095	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	40	15.735	AM	DENMRK	Radio Denmark	デンマーク
12	15.310	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	41	9.780	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
13	6.045	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	42	11.960	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
14	9.790	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	43	15.555	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
15	11.670	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	44	21.655	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
16	15.525	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	45	7.270	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
17	3.955	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	46	9.520	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
18	6.075	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	47	11.920	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
19	9.545	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	48	15.585	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
20	9.735	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	49	6.090	AM	LUXBRG	Radio Luxembourg	ルクセンブルグ
21	6.060	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	50	7.485	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
22	7.175	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	51	9.590	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
23	9.515	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	52	9.985	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
24	17.710	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	53	13.800	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
25	3.985	AM	SWISS	Swiss Radio International	スイス	54	6.065	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
26	6.165	AM	SWISS	Swiss Radio International	スイス	55	9.490	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
27	9.885	AM	SWISS	Swiss Radio International	スイス	56	13.625	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
28	15.220	AM	SWISS	Swiss Radio International	スイス	57	17.505	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
29	5.985	AM	BELGUM	Radio Vlaanderen International	ベルギー	58	6.120	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド

プリセットされている放送局周波数一覧表 (2)

- AMラジオ放送のバンドを受信するときは、市販の外部アンテナの取り付けをおすすめします。
- 受信する時間帯や電波の状態が悪いときは、受信できない場合があります。
- 各放送局は下表以外にも受信できる周波数があります。詳しくは市販されている周波数帳などを参考にしてください。

リスト チャネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リスト チャネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
59	9.630	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド	89	12.080	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア
60	11.755	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド	90	0.567	AM	NHK-1	NHK第1札幌	北海道
61	9.795	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド	91	0.747	AM	NHK-2	NHK第2札幌	北海道
62	5.940	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	92	1.287	AM	HBC	北海道放送	北海道
63	5.920	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	93	1.440	AM	STV	STVラジオ	北海道
64	7.205	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	94	80.400	WFM	AIR-G	FM北海道	北海道
65	12.030	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	95	82.500	WFM	NR-WAV	FMノースウェーブ	北海道
66	9.435	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	96	85.200	WFM	NHK-SP	NHK-FM札幌	北海道
67	11.585	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	97	95.750	WFM	TV-1CH	北海道放送	北海道
68	15.615	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	98	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	北海道
69	17.545	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	99	181.750	WFM	TV-5CH	STV	北海道
70	6.045	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	100	221.750	WFM	TV12CH	NHK教育	北海道
71	9.595	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	101	499.750	WFM	TV17CH	テレビ北海道	北海道
72	11.620	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	102	559.750	WFM	TV27CH	北海道文化放送	北海道
73	15.020	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	103	607.750	WFM	TV35CH	北海道テレビ放送	北海道
74	7.190	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	104	1.233	AM	RAB	青森放送	東北
75	5.250	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	105	80.000	WFM	AFB	FM青森	東北
76	9.855	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	106	0.684	AM	IBC	岩手放送	東北
77	11.685	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	107	76.100	WFM	FMI	FM岩手	東北
78	5.975	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	108	0.936	AM	ABS	秋田放送	東北
79	7.275	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	109	82.800	WFM	AFM	FM秋田	東北
80	9.570	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	110	0.918	AM	YBC	山形放送	東北
81	13.670	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	111	80.400	WFM	BOY-FM	FM山形	東北
82	6.155	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	112	1.458	AM	RFC	ラジオ福島	東北
83	7.200	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	113	81.800	WFM	FMF	ふくしまFM	東北
84	9.750	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	114	0.891	AM	NHK-1	NHK第1仙台	東北
85	11.850	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	115	1.089	AM	NHK-2	NHK第2仙台	東北
86	5.995	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア	116	1.260	AM	TBC	東北放送	東北
87	9.580	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア	117	77.100	WFM	DAT-FM	FM仙台	東北
88	9.660	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア	118	82.500	WFM	NHK-SD	NHK-FM仙台	東北

プリセットされている放送局周波数一覧表 (3)

リスト チャネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リスト チャネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
119	95.750	WFM	TV-1CH	東北放送	東北	158	86.300	WFM	FM-GNM	FMぐんま	関東
120	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	東北	159	95.750	WFM	TV-1CH	NHK総合テレビ	関東
121	181.750	WFM	TV-5CH	NHK教育	東北	160	107.750	WFM	TV-3CH	NHK教育テレビ	関東
122	221.750	WFM	TV12CH	仙台放送	東北	161	175.750	WFM	TV-4CH	日本テレビ	関東
123	589.750	WFM	TV32CH	東日本放送	東北	162	187.750	WFM	TV-6CH	TBS	関東
124	601.750	WFM	TV34CH	宮城テレビ放送	東北	163	197.750	WFM	TV-8CH	フジテレビ	関東
125	1.116	AM	BSN	新潟放送	信越	164	209.750	WFM	TV10CH	テレビ朝日	関東
126	77.500	WFM	FM-NIG	FM新潟	信越	165	221.750	WFM	TV12CH	テレビ東京	関東
127	1.098	AM	SBC	信越放送	信越	166	481.750	WFM	TV14CH	MX-TV	関東
128	79.700	WFM	FM-NGN	FM長野	信越	167	493.750	WFM	TV16CH	放送大学	関東
129	0.738	AM	KNB	北日本放送	北陸	168	625.750	WFM	TV38CH	テレビ埼玉	関東
130	82.700	WFM	FM-TYM	FMとやま	北陸	169	649.750	WFM	TV42CH	TVK	関東
131	1.107	AM	MRO	北陸放送	北陸	170	673.750	WFM	TV46CH	千葉テレビ	関東
132	80.500	WFM	FM-ISK	FM石川	北陸	171	685.750	WFM	TV48CH	群馬テレビ	関東
133	0.864	AM	FBC	福井放送	北陸	172	0.729	AM	NHK-1	NHK第1名古屋	東海
134	76.100	WFM	FM-FKI	FM福井	北陸	173	0.909	AM	NHK-2	NHK第2名古屋	東海
135	0.594	AM	NHK-1	NHK第1東京	関東	174	1.053	AM	CBC	CBCラジオ	東海
136	0.693	AM	NHK-2	NHK第2東京	関東	175	1.332	AM	TOKAI	東海ラジオ放送	東海
137	0.765	AM	YBS	山梨放送	関東	176	1.431	AM	GIFU	岐阜ラジオ	東海
138	0.810	AM	AFN	AFN東京	関東	177	77.800	WFM	ZIP-FM	FM名古屋	東海
139	0.954	AM	TBS	TBS	関東	178	78.900	WFM	FM-MIE	FM三重	東海
140	1.134	AM	BUNKA	文化放送	関東	179	79.500	WFM	RADIOI	愛知国際放送	東海
141	1.197	AM	IBS	茨城放送	関東	180	80.000	WFM	RAD-80	岐阜FM	東海
142	1.242	AM	NIPPON	ニッポン放送	関東	181	80.700	WFM	FMA	FM愛知	東海
143	1.422	AM	RF-NPN	RFラジオ日本	関東	182	82.500	WFM	NHK-NY	NHK-FM名古屋	東海
144	1.530	AM	CRT	栃木放送	関東	183	95.750	WFM	TV-1CH	東海テレビ	東海
145	76.100	WFM	INT-FM	Inter FM	関東	184	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合テレビ	東海
146	76.400	WFM	R-BERY	FM栃木	関東	185	181.750	WFM	TV-5CH	中部日本放送	東海
147	77.100	WFM	FM-UNV	放送大学	関東	186	203.750	WFM	TV-9CH	NHK教育テレビ	東海
148	78.000	WFM	BAY-FM	BAY FM	関東	187	215.750	WFM	TV11CH	名古屋テレビ	東海
149	78.600	WFM	FM-FUJ	FM富士	関東	188	547.750	WFM	TV25CH	テレビ愛知	東海
150	79.500	WFM	NACK-5	NACK 5	関東	189	607.750	WFM	TV35CH	中京テレビ	東海
151	80.000	WFM	TYO-FM	TOKYO FM	関東	190	1.404	AM	SBS	静岡放送	東海
152	80.700	WFM	NHK-CB	NHK-FM千葉	関東	191	76.100	WFM	FM-HAR	浜松FM放送	東海
153	81.300	WFM	J-WAVE	J-WAVE	関東	192	79.200	WFM	K-MIX	静岡FM放送	東海
154	81.900	WFM	NHK-YK	NHK-FM横浜	関東	193	0.558	AM	AM-KOB	ラジオ関西	近畿
155	82.500	WFM	NHK-TY	NHK-FM東京	関東	194	0.666	AM	NHK-1	NHK第1大阪	近畿
156	84.700	WFM	FM-YKH	FMヨコハマ	関東	195	0.828	AM	NHK-2	NHK第2大阪	近畿
157	85.100	WFM	NHK-UW	NHK-FMさいたま	関東	196	1.008	AM	ABC	朝日放送	近畿

プリセットされている放送局周波数一覧表 (4)

リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
197	1.143	AM	KBS	京都放送	近畿	236	79.200	WFM	FMY	FM山口	中国
198	1.179	AM	MBS	毎日放送	近畿	237	1.449	AM	RNC	西日本放送	四国
199	1.314	AM	OBC	大阪放送	近畿	238	78.600	WFM	FM-KGW	FM香川	四国
200	76.500	WFM	FM-CCL	関西インターネットメディア	近畿	239	1.116	AM	RNB	南海放送	四国
201	80.200	WFM	FM-802	FM802	近畿	240	79.700	WFM	FM-EHM	FM愛媛	四国
202	82.800	WFM	NHK-KT	NHK-FM京都	近畿	241	1.269	AM	JRT	四国放送	四国
203	85.100	WFM	FM-OSK	FM大阪	近畿	242	80.700	WFM	FM-TKS	FM徳島	四国
204	86.500	WFM	NHK-KB	NHK-FM神戸	近畿	243	0.900	AM	RKC	高知放送	四国
205	88.100	WFM	NHK-OS	NHK-FM大阪	近畿	244	81.600	WFM	FM-KCH	FM高知	四国
206	89.400	WFM	A-STN	FM京都	近畿	245	0.612	AM	NHK-1	NHK第1福岡	九州
207	89.900	WFM	KIS-FM	兵庫FMラジオ放送	近畿	246	1.017	AM	NHK-2	NHK第2福岡	九州
208	101.750	WFM	TV-2CH	NHK総合	近畿	247	1.278	AM	RKB	RKB毎日放送	九州
209	175.750	WFM	TV-4CH	毎日放送	近畿	248	1.413	AM	KBC	九州朝日放送	九州
210	187.750	WFM	TV-6CH	朝日放送	近畿	249	76.100	WFM	LOVEFM	九州国際FM	九州
211	197.750	WFM	TV-8CH	関西テレビ	近畿	250	78.700	WFM	CRS-FM	FM九州	九州
212	209.750	WFM	TV10CH	読売テレビ	近畿	251	80.700	WFM	FM-FOK	FM福岡	九州
213	221.750	WFM	TV12CH	NHK教育	近畿	252	84.800	WFM	NHK-FK	NHK-FM福岡	九州
214	511.750	WFM	TV19CH	テレビ大阪	近畿	253	95.750	WFM	TV-1CH	九州朝日放送	九州
215	613.750	WFM	TV36CH	サンテレビ	近畿	254	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	九州
216	77.000	WFM	ERADIO	FM滋賀	近畿	255	175.750	WFM	TV-4CH	RKB毎日放送	九州
217	1.431	AM	WBS	和歌山放送	近畿	256	187.750	WFM	TV-6CH	NHK教育	九州
218	1.494	AM	RSK	山陽放送	中国	257	203.750	WFM	TV-9CH	テレビ西日本	九州
219	76.800	WFM	FM-OKY	FM岡山	中国	258	511.750	WFM	TV19CH	TXN九州	九州
220	0.702	AM	NHK-2	NHK第2広島	中国	259	619.750	WFM	TV37CH	福岡放送	九州
221	1.071	AM	NHK-1	NHK第1広島	中国	260	77.900	WFM	FMS	FM佐賀	九州
222	1.350	AM	RCC	中国放送	中国	261	1.233	AM	NBC	長崎放送	九州
223	78.200	WFM	HFM	広島FM放送	中国	262	79.500	WFM	SMILE	FM長崎	九州
224	88.300	WFM	NHK-HR	NHK-FM広島	中国	263	1.098	AM	OBS	大分放送	九州
225	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	中国	264	88.000	WFM	FM-OIT	FM大分	九州
226	175.750	WFM	TV-4CH	中国放送	中国	265	0.936	AM	MRT	宮崎放送	九州
227	193.750	WFM	TV-7CH	NHK教育	中国	266	83.200	WFM	JOY-FM	FM宮崎	九州
228	221.750	WFM	TV12CH	広島テレビ	中国	267	1.197	AM	RKK	熊本放送	九州
229	583.750	WFM	TV31CH	テレビ新広島	中国	268	77.400	WFM	FMK	FM中九州	九州
230	607.750	WFM	TV35CH	広島ホームテレビ	中国	269	1.107	AM	MBC	南日本放送	九州
231	1.431	AM	BSS	山陰放送(鳥取)	中国	270	79.800	WFM	MYUFM	FM鹿児島	九州
232	78.800	WFM	V-AIR	FM山陰(鳥取)	中国	271	0.738	AM	RBC	琉球放送	沖縄
233	0.900	AM	BSS	山陰放送(島根)	中国	272	0.864	AM	ROK	ラジオ沖縄	沖縄
234	77.400	WFM	V-AIR	FM山陰(島根)	中国	273	87.300	WFM	FM-OKN	FM沖縄	沖縄
235	1.458	AM	KRY	山口放送	中国	-	-	-	-	-	-

TVチャンネル/周波数一覧表

『スペシャルバンクのTV専用メモリーでTV放送を聴く』の項目でTVチャンネルを呼び出したときの一覧表です。

- 1. (BW)を押した後に(⊗)を押します。
- 2. スペシャルバンクの表示になりますので、(BAND)を押して「TV CH」を選択します。
選択後、プリセットされているTVチャンネルと周波数を表示します。
- 3. DIALツマミをまわして、聴きたいTVチャンネルに合わせます。

チャンネル	周波数(MHz)	チャンネル	周波数(MHz)	チャンネル	周波数(MHz)	チャンネル	周波数(MHz)	チャンネル	周波数(MHz)
1	95.75	14	481.75	27	559.75	40	637.75	53	715.75
2	101.75	15	487.75	28	565.75	41	643.75	54	721.75
3	107.75	16	493.75	29	571.75	42	649.75	55	727.75
4	175.75	17	499.75	30	577.75	43	655.75	56	733.75
5	181.75	18	505.75	31	583.75	44	661.75	57	739.75
6	187.75	19	511.75	32	589.75	45	667.75	58	745.75
7	193.75	20	517.75	33	595.75	46	673.75	59	751.75
8	197.75	21	523.75	34	601.75	47	679.75	60	757.75
9	203.75	22	529.75	35	607.75	48	685.75	61	763.75
10	209.75	23	535.75	36	613.75	49	691.75	62	769.75
11	215.75	24	541.75	37	619.75	50	697.75	-	-
12	221.75	25	547.75	38	625.75	51	703.75	-	-
13	475.75	26	553.75	39	631.75	52	709.75	-	-

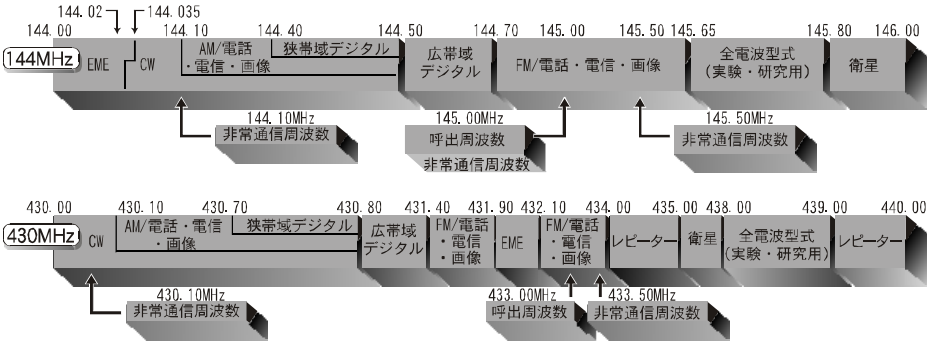
JR鉄道無線周波数一覧表

『スペシャルバンクを呼び出してJR鉄道無線を聴く』の項目でJR鉄道無線を呼び出したときの一覧表です。

- 1. (BW)を押した後に(⊗)を押します。
- 2. スペシャルバンクの表示になりますので、(BAND)を押して「JR CH」を選択します。
選択後、プリセットされているJR鉄道無線の周波数を表示します。
- 3. DIALツマミをまわしてチャンネルを合わせると、JR鉄道無線の周波数を呼び出すことができます。

リストCH	チャンネル	周波数(MHz)	リストCH	チャンネル	周波数(MHz)	リストCH	チャンネル	周波数(MHz)	リストCH	チャンネル	周波数(MHz)
1	JR-1	352.5375	5	JR-3	352.5625	9	JR-5	352.5875	13	JR-7	352.6125
2	JR-1T	336.0375	6	JR-3T	336.0625	10	JR-5T	336.0875	14	JR-7T	336.1125
3	JR-2	352.5500	7	JR-4	352.5750	11	JR-6	352.6000	15	JR-8	352.6250
4	JR-2T	336.0500	8	JR-4T	336.0750	12	JR-6T	336.1000	16	JR-8T	336.1250

周波数の使用区分



伝送情報および用途等	アマチュア業務に使用する電波型式
CW	A1
AM/電話・電信	A2 ^{*1} , A3, A3A, A3H, A3J (SSB), A9 ^{*2}
AM/データ・画像	A2 ^{*3} , A4, A5J ^{*4} , A9 (FAX), A9C (FAX), F1 ^{*3} , F4 ^{*5} , F5 ^{*6}
FM/電話・電信	F2 ^{*1} , F3
FM/データ・画像	F2 ^{*3} , F4 ^{*7} , F5 ^{*8} , F9 (FAX)
衛星 ^{*9}	A1, A3A, A3H, A3J (SSB), F1 ^{*3} , F2 ^{*3}
EME ^{*10}	A1, A2 ^{*1} , A3, A3A, A3H, A3J (SSB)
レピーター ^{*11}	F2, F3, F4 ^{*7} , F5 ^{*8} , F9 (FAX)
全電波型式 ^{*12}	A1, A2, A3, A3A, A3H, A3J, A4, A5, A5C, A5J, A9, A9C, F1, F2, F3, F4, F5, F9, P0, P1, P2D, P2E, P2F, P3D, P3F, P9
狭帯域デジタル ^{*13}	F1
広帯域デジタル ^{*14}	F1 ^{*3} , F2 ^{*3}

- *1 A2およびF2は、モールス無線電信による通信に使用する電波とする。
- *2 A3は、抑圧搬送波両側波帯の無線電話の電波とする。
- *3 A2, F1, およびF2は、データ伝送（機械によって、処理される情報または処理された情報の伝達）を行う電波とする。
- *4 A5Jは、主搬送波を変調した副搬送波で振幅変調（抑圧搬送波単側波帯の場合に限る）してテレビジョン伝送を行うF5に該当しない電波とする。ただし、占有周波数帯幅は、3kHz以下とする。
- *5 F4は、主搬送波を周波数変調した副搬送波で振幅変調（抑圧搬送波単側波帯の場合に限る）してファクシミリ伝送を行う電波とする。ただし、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

- *6 F5は、主搬送波を周波数変調した副搬送波で振幅変調（抑圧搬送波単側波帯の場合に限る）してテレビジョン伝送を行う電波とする。ただし、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- *7 F4は、主搬送波を直接にまたは周波数変調した副搬送波で周波数変調してファクシミリ伝送を行う電波とする。ただし、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- *8 F5は、テレビジョン伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- *9 衛星は、衛星通信に使用する電波をいう。
- *10 EMEは、月面反射通信に使用する電波をいう。
- *11 レピーターは、社団法人日本アマチュア無線連盟（JARL）のアマチュア業務の中継無線局（レピーター局）との通信に使用する電波をいう。
- *12 全電波型式とは、各アマチュア局に指定されているすべての電波型式とする。
- *13 占有周波数帯幅が6kHz以下のものに限る。
- *14 占有周波数帯幅が6kHzを超えるものに限る。

VX-2を使った新規開局または変更には次の書類が必要です。

新規開局	変 更
<ul style="list-style-type: none"> ● 無線局免許申請書 ● 無線局事項書及び工事設計書 ● 送信機系統図(付属装置がある場合のみ) ● アマチュア局の無線設備の保証認定願(付属装置がある場合のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ● アマチュア局の無線設備等の変更申請(届)書 ● 無線局事項書及び工事設計書 ● 送信機系統図(付属装置がある場合のみ) ● アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願(付属装置がある場合のみ)

「無線局事項書及び工事設計書の書きかた」

VX-2は技術基準適合機ですので、技術基準適合証明番号を記入することにより、下記記入例の＊欄は記入を省略できます。

技術基準適合番号
『02KN342』を記入
する

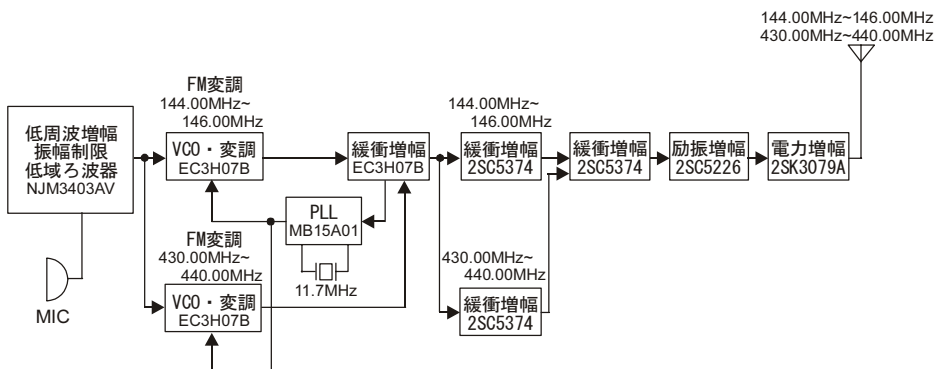
[illegible]

「アマチュア局の無線設備の保証認定願」/「アマチュア局の無線設備等の
変更の保証認定願」の書きかた (付属装置がある場合)

《例：新規開局の場合》

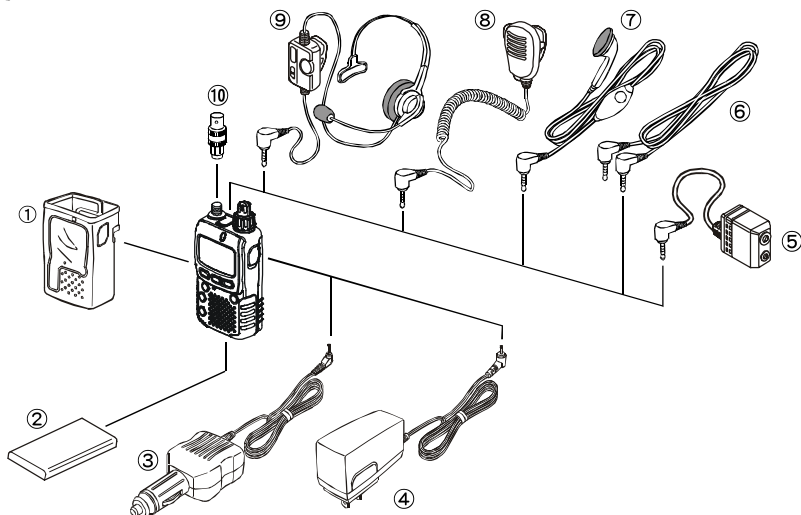
- 技術基準適合外の無線機と一緒に保証認定で申請（アマチュア局の無線設備の保証認定願/アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願）する場合であっても、VX-2に関しては技術基準適合機として申請できます。
- VX-2の技術基準適合番号は、背面の技術基準適合証明シールに記載されています。
- 『方式・規格』の記入事項については、お使いのTNCの取扱説明書を参照してください。

《送信機系統圖》



オプション

■使用できるオプション



- | | |
|-------------------------------|------------------------------------|
| ① ソフトケース (CSC-90) | ⑥ クローンケーブル (CT-27) |
| ② 電池パック (FNB-82LI) | ⑦ イヤピースマイク (MH+37 _{A4B}) |
| ③ シガープラグ付き外部電源アダプター (E-DC-21) | ⑧ スピーカーマイク (MH+34 _{E4B}) |
| ④ バッテリーチャージャー (NC-85A) | ⑨ VOXヘッドセット (VC-25) |
| ⑤ マイクアダプター (CT-44) | ⑩ アンテナ変換コネクタ (CN+3) |

故障かな？と思ったら 修理を依頼される前に、次の事項を確認してください。

■電源が入らない

- 電池/パックが消耗していませんか？（8ページ）
お買い上げ直後または長期間使用していないときは、電池/パックを充電してください。
- 電池/パックは正しくセットしてありますか？（8ページ）
“電池/パックを取り付ける”を参照し、確実に取り付けてください。
- 外部電源の接続は間違っていないですか？（9ページ）
外部電源を使用するときには、必ずシガープラグ付き外部電源アダプター“E-DC-21”を使用してください。
- 電池/パックまたはE-DC-21の電圧は正常ですか？（9ページ、12ページ、42ページ）
電池/パックの場合は残量があること、E-DC-21の出力電圧は約DC6Vであることを確認してください。

■音が出ない

- スケルチ（またはRFスケルチ）のレベルや設定が大きくなっていませんか？（14、34ページ）
モニタースイッチを押して、ザーという音が出ることを確認してください。
弱いV信号を受信するときには、スケルチ（またはRFスケルチ）レベルを調整してください。
- VOLツマミを左方向にまわしすぎていませんか？（12ページ）
- トーンスケルチまたはDCSがオンになっていませんか？（39ページ）
トーンスケルチまたはDCSがオンのときには、設定したトーン周波数またはDCSコードと同じ信号が含まれた信号を受信するまで音は出ません。

■電波が出ない

- PTTスイッチは確実に押していますか？（13ページ）
- PTTロックがオンになっていませんか？（14ページ）
- ビジー-TX禁止（BCL機能）がオンになっていませんか？（35ページ）
ビジー-TX禁止（BCL機能）がオンのときには、信号を受信しているときにPTTスイッチを押しても電波は出ません。信号がなくなるのを待ってからPTTスイッチを押してください。
- 送信周波数はアマチュアバンドの144MHz帯と430MHz帯のFMになっていませんか？（12ページ）
AMラジオ放送帯/短波帯/50MHz帯/FMラジオ放送帯/TV放送帯/情報無線帯では送信できません。
- 電池/パックまたは外部電源の電圧は正常ですか？（9ページ、12ページ、42ページ）
電池/パックの残量を確認してください。
また、送信時に電圧降下を起こすような電源では、VX-2の性能を十分に発揮することはできません。

■キーやDIALツマミを操作できない

- キーロックやDIALロックがオンになっていませんか？（14ページ）

////////////////////////////////////
以下の周波数関係で、内部発信器の高調波による内部ビート等の影響がありますが、故障ではありません。

受信周波数 (MHz) = 3.579545MHz × n倍 (nは任意の整数)
受信周波数 (MHz) = 11.7MHz × n倍 (nは任意の整数)

索引

記号	± 1MHz スキャン	26
	± 2MHz スキャン	26
	± 5MHz スキャン	26
A	ALL CH スキャン	29, 30
	ALL スキャン	26
	AM/FM ラジオを聴く	23
	APO	35
	ARS	14
	ARS 機能の ON/OFF	46
	ARTS 機能を使う	38
	ARTS 使用時に自局の ID を送出する	38
	ARTS 着信時のピープ音設定	46
	ARTS 動作時のチェック間隔の設定	46
	ATT	42
B	BAND キー	10
	BAND スキャン	26, 29, 30
	BAND を選ぶ	12
	BCLO	35
	BEEP	42
	BELL	40
	BND DN	12
	BUSY LED の ON/OFF	47
	BUSY/TX インジケータ	10
C	CH CNT	31
	CW ID	38
D	DC VLT	42
	DCS	39
	DCS コードを設定する	40
	DCS 反転コード受信の許可/禁止	47
	DCS を使う	39
	DIAL ツマミ	10, 12
	DIMMER	41
	DTMF 機能を使う	36
	DTMF コードを登録する	36
E	EMV	41
	EXT DC 端子	8, 9, 10
F	FM/AM/WIDE FM のスケルチレベル設定	50
	FRG 方式	15
	FW キー	10
H	H/L キー	10, 13
	HM/RV キー	10
J	JR 以外の空線信号音を消す	25
	JR 鉄道無線周波数一覧表	58
	JR 鉄道無線のチャンネルを選ぶ	24
	JR 鉄道無線を聴く	24
	JR の空線信号音を消す	25
L	LAMP	41
M	M-TUNE	18
	MD キー	10, 43
	MC/SP 端子	10
O	ONLY	30
P	PMS スキャン	26, 28, 29
	PIT スイッチ	10, 13
R	RF SOL	34
	RF スケルチ機能を使う	34
	RV	14
	RV TN	39

S	S SRCH	32
	SCAN	26, 28, 29, 30
	SET	44
	SKIP	30
	SMA 端子	10
	SP BNK	22, 23, 24
	SPC S	31, 32, 33
	SQ TYP	14
	SRG 方式	15
	STEP	43
T	TN FRQ	39
	TONE	39
	TOT	35
	TSQ	39
	TV 専用メモリーで TV 放送を聴く	22
	TV チャンネル/周波数一覧表	58
	TV 放送を聴く	23
	TV 放送をチャンネル番号で選択する	22
V	V/M キー	10
	VFO スキャン	26
	VFO モード時の周波数選択範囲の設定	51
	VOL ツマミ	10, 12
	VX-2 のメモリー構成	16
W	WIREs で交信する	15
あ	アマチュア無線局免許申請書類の書きかた	60
	安全上のご注意	4
	アンテナ端子	10
	アンテナを取り付ける	7
い	一時ハイパワー送信	13
	インターネットキー	10, 43
	インターネットキーの動作をマイキーに変更する	43
	インターネット通信	10
	インターネットモードの選択	48
え	エマージェンシー機能	41
	エマージェンシーモードの設定	48
お	オートステップ	10, 43
	オートモード	10, 43
	オープニングメッセージ	12
	オープニングメッセージの設定	49
	オールリセット	13
	オプシヨ	62
	音量を調節する	12
か	外部電源を接続する	9
	各部の名前と働き	10
	可変型空線スケルチ機能	25
き	キー操作早見表	67
	キーロック	14
	聴きたい放送局を選択する	23
	聴きたい放送局をメモリーバンクに登録する	23
	緊急を知らせる	41
く	空線スケルチ機能	25
	クローン操作	53
	クロックシフトの設定	47
け	現在いる場所で受信できる TV チャンネルを選択する	22
こ	故障かな?と思ったら	63
さ	サーチ幅を変更する	31

し	指定した周波数の範囲をスマートサーチする	32
	自動的に電源をオフする(APO)	35
	市販のバンドストラップを取り付ける	7
	周波数帯(BAND)を選ぶ	12
	周波数帯と受信周波数の関係	26
	周波数の使用区分	59
	周波数をあわせる	12
	周波数を調べる	31
	受信感度を下げる(ATT)	42
	受信セーブ時間の設定	50
	受信中に誤って送信しないようにする(BCLO)	35
	受信モードの切り替え	50
	使用時間の目安と残量表示	9
	状態が変わらないようにロックする	14
	照明が自動的に点灯しないようにする	41
す	スキップサーチメモリー	27
	スキップサーチメモリーを消す	27
	スキップメモリーを設定する	30
	スキャンしたくない周波数をスキップする	27
	スキャンしたくない周波数を設定する	27
	スキャンストップ時の受信方法を設定する	27
	スキャンストップ時のランプ点灯	50
	スケルチタイプの設定	51
	スケルチのレベルを調節する	14
	スタンダードのホームページ	15
	ステップ	43
	スピーカー	10
	スプリットメモリー	17
	スペシャルサーチ機能	10
	スペシャルサーチモード	31, 32, 33
	スペシャルバンク	10, 22, 23, 24
	スマートサーチ	32
せ	世界各地の放送を聴く	23
	セットモード項目別一覧表	45
	セットモードの動作一覧表	46
	セットモード番号順一覧表	44
	セットモードリセット	46
そ	操作音がならないようにする	42
	送受信で別々のスケルチタイプの設定	50
	送信機系統図	61
	送信出力を切り替える	13
	送信する	13
	送信セーブ設定	51
	送信変調レベルの設定	48
た	タイムアウトタイマー機能	35
	多彩なメモリー機能	16
ち	チャンネルカウンター	31
	チャンネルステップの設定	51
て	定格	66
	ディスプレイ	10
	ディスプレイの説明	11
	ディスプレイとキーの照明輝度を調節する	41
	デジタルコードスケルチ	39
	デュアルレシーブ	10
	デュアルレシーブ(DW)機能を使う	34
	電源スイッチ	10
	電源を入れる	12
	電池の電圧を表示する	42
	電池/バックで使用できる時間の目安と残量表示	9
	電池/バックについて	8

	電池/バックを充電する	8
	電池/バックを準備する	8
	電池/バックを取り付ける	8
	電波を発射する前に	3
と	トーン	39
	トーンスケルチ	39
	トーンスケルチを使う	39
	トーンの周波数を設定する	39
	同梱品	2
	盗聴器発見機能サーチ	33
	盗聴器を探し出す	33
	登録したDTMFコードを送出する	36
	特長	3
	特定のメモリーチャンネルのみをスキャンする	30
	特定メモリーを設定する	30
は	ポケット通信に使う	52
	バンドエッジまたはCH1通過時の確認音	48
ひ	ピープ	42
	ビジーチャンネルロックアウト機能	35
ふ	付属品を取り付ける	7
	プライオリティスキャン	10
	プリセットされている放送局周波数一覧表	54
	プログラマブルメモリスキャン(PMS)	28
へ	ベル機能を使う	40
	ベルトクリップを取り付ける	7
ほ	ホームチャンネル(HM)キー/リバーズ(RV)キー変更設定	48
	ホームチャンネルを呼び出す	18
ま	マイキー	43
	マイキーの登録を変更する	43
	マイク	10
	マニュアルでDTMFコードを送出する	37
	マニュアルでステップを切り替える	43
	マニュアルでモードを切り替える	43
め	メモリー書き込み時のオートインクリメント設定	49
	メモリスキャン	29
	メモリータグを使う	20
	メモリータグを表示する	21
	メモリーチューン	10, 18
	メモリーに書き込む	17
	メモリーに名前をつける	20
	メモリーバンク内のメモリーチャンネルを呼び出す	19
	メモリーバンクに登録する	19
	メモリーバンクを使う	19
	メモリーを消す	17
	メモリーを呼び出す	18
も	モード	43
	文字一覧表	21
	モニタースイッチ	10
	モニタースイッチ/T-CALLスイッチ変更設定	48
り	リバーズ	14
	リバーストーン	39
れ	レピータで交信する	14
	レピータシフト幅の設定	50
	レピータシフト方向の設定	50
	連続送信時間を制限する(TOT)	35
ろ	ローカルのWIRE局をアクセスする	15
	ロックモードの設定	48

定 格

■一般定格

送受信可能周波数範囲	: 送信周波数範囲 144~146MHz, 430~440MHz : 受信周波数範囲 504kHz~998.99MHz (253~276MHz, 380~383MHz, 412~416MHz, 810~846MHz, 860~901MHz, 915~961MHzの周波数帯は受信できません)	
送受信周波数ステップ	: 5/10/12.5/15/20/25/50/100kHz (AMラジオ放送帯に限り, 9kHzおよび10kHzを選択することができます)	
電波型式	: F2, F3	
通信方式	: 単信方式	
周波数偏差	: $\pm 5\text{ppm}$ 以内 ($-10^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$)	
アンテナインピーダンス	: 50 Ω	
電 源	: 定格	DC3.7V (電池/バックFNB-82L使用時), マイナス接地 DC6V (外部電源使用時), マイナス接地 DC3.2~7V, マイナス接地
消費電流	動作可能範囲 (外部電源入力) : 受信定格出力時 約150mA : 受信スケルチ時 約58mA : 受信/バッテリーセーブ時 (受信1: セーブ5) 約20mA : 電源オフ時 (APO) 約200 μA 144MHz帯送信時 (1.5W): 約1.3A, 430MHz帯送信時 (1W): 約1.2A	
使用温度範囲	: $-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$	
ケース寸法	: 幅47×高さ81×奥行き23mm (突起物を含まない)	
本体重量	: 約132g (アンテナ, 電池/バックFNB-82Lを含む)	

■送信部

送信出力	: 144MHz帯: 3W (外部電源6V入力時) 1.5W (3.7V入力時: 電池/バックFNB-82L) 430MHz帯: 2W (外部電源6V入力時) 1W (3.7V入力時: 電池/バックFNB-82L)
変調方式	: FM: リアクタンス変調
最大周波数偏移	: $\pm 5\text{kHz}$ (DCおよびスプラッタフィルター付き)
占有周波数帯域	: FM: 16kHz以内
不要輻射強度	: 60dB以下 (HIGH), 50dB以下 (LOW)
マイクロホンインピーダンス	: 約2k Ω (エレクトレットコンデンサ型)

■受信部

受信方式	: NFM; ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン, WFM; トリプルコンバージョンスーパーヘテロダイン
中間周波数	: NFM時 第一IF周波数47.25MHz, 第二IF周波数450kHz WFM時 第一IF周波数45.8MHz, 第二IF周波数10.7MHz, 第三IF周波数1MHz
受信感度	: 0.5~30MHz (AM) 3 μV @10dB SN 30~54MHz (NFM) 0.35 μV typ @12dB SINAD 54~76MHz (NFM) 1 μV typ @12dB SINAD 76~108MHz (WFM) 1.5 μV typ @12dB SINAD 108~137MHz (AM) 1.5 μV typ @10dB SN 137~140MHz (NFM) 0.2 μV @12dB SINAD 140~150MHz (NFM) 0.16 μV @12dB SINAD 150~174MHz (NFM) 0.2 μV @12dB SINAD 174~225MHz (WFM) 1 μV typ @12dB SINAD 300~350MHz (NFM) 0.5 μV @12dB SINAD 350~400MHz (NFM) 0.2 μV @12dB SINAD 400~470MHz (NFM) 0.18 μV @12dB SINAD 470~540MHz (WFM) 1.5 μV @12dB SINAD 540~800MHz (WFM) 3 μV typ @12dB SINAD 800~999MHz (NFM) 1.5 μV typ @12dB SINAD
通過帯域幅	: NFM, AM; 12kHz以上/−6dB WFM; 200kHz以上/−6dB
選択度	: NFM, AM; 35kHz以下/−60dB WFM; 300kHz以下/−20dB
低周波定格出力	: 50mW以上 (@3.7V), 100mW以上 (6V) (8 Ω , THD10%)
低周波出力インピーダンス	: 8 Ω
副次的に発する電波等の強度	: 4nW以下

定格値は常温・常圧時の値です。

キー操作早見表

キー & スイッチ	直接押す	1秒以上押す	 押し後各キーを押す	 押し後各キーを1秒以上押す
PTT	送信	←	一時ハイパワー送信	—
モニター	スクルチオフ	←	スクルチレベル設定	—
 (電源)	—	電源オン/オフ	—	—
DIAL	—	—	1MHz単位で変化 (DIALをまわす)	—
	バンド切り替え (アップ) メモリーバンク切り替え (メモリーモード)	スキャン開始/ スキャンモード切り替え	バンド切り替え (ダウン)	キーロック オン/オフ
	送信出力切り替え	セットモード移行	周波数ステップ切り替え	—
	VFO/メモリーモード切り替え	デュアルレシーブ開始	メモリーチューン	—
	ファンクションモード*	メモリー書き込み スキップサーチメモリー書き込み	—	—
	ホームチャンネル呼び出し	エマージェンシー オン/オフ	リバース オン/オフ	—
	WIFESモード オン/オフ	ARTS機能	スペシャルバンク呼び出し*1	—
	モード (電波形式) 切り替え	スペシャルサーチモード呼び出し*2	スクルチタイプ切り替え	—

***1 : スペシャルバンク** TV チャンネル, JR 鉄道無線, 海外ラジオ放送局, 国内ラジオ放送局など, あらかじめプリセットされているメモリーを選択することができます.

***2 : スペシャルサーチモード** チャンネルカウンター, スマートサーチ, 盗聴器発見機能サーチの機能を選択することができます.



製造元・株式会社バーテックススタンダード
〒153-8644 東京都目黒区中目黒4-8-8